川柳雜誌

麻生路郎☆主宰

Pensoj flugas trans la land-limon

The Senryu Zasshi

No.314

七月號

昭和廿二年七月一日第三種郵便物認可
昭和廿八年七月一日発行第八卷第七號
（毎月一回一日発行）
創刊大正十三年・通卷三百十四号

七月号目次

（昭和二十八年）

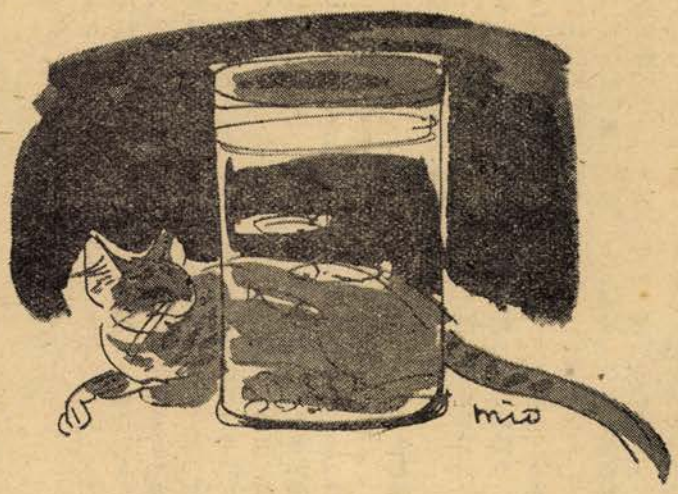
題字……麻生路郎
表紙……米田三男之介

川柳を通して学校の寡表を語る……古方・白香丁路・摩天郎…（四）
母いまさず……中島生々庵…（一四）
調子の川柳……安川久留美…（二四）
川柳と俳句の区別に對する私見（四）……戸田古方…（二二）
頂門の一針……吉田水車…（一八）
人間横丁（Ⅲ）……東野大八…（一五）
故郷の米と卵……山本葉光…（二〇）
若し百万円当つたら……諸家…（二二）
愛妻家……木村水堂…（二五）

BK放送川柳……麻生路郎選…（三〇）
☆
不朽洞句帖……麻生路郎…（三）
川柳塔……麻生路郎選…（八）
同舟近詠……諸家…（二三）
近作柳樽……麻生路郎選…（一六）
一路集「里帰り」……尼緑之助選
「看護婦」……大森風来子選…（二二）
各地柳壇……（二六）
不朽洞会から……（三一）
柳界展望……（三〇）
編集局にて……（三二）

もっと速く もっと便利に…
とのご期待に應えて
名古屋―大阪 特急 2時間55分
名古屋発 八・〇〇 一二・〇〇 一六・〇〇 一八・〇〇
大阪上六発 七・四〇 一一・四〇 一四・四〇 一六・四〇
普通急行はこのほか60分ごと運行
近畿日本鉄道

OSK
毛織物
既製服
製造卸商
株式会社
大坂商店
大阪市東区糸屋町一丁目二
電話東㊸一七四五番



不朽洞句帖

麻生路郎

お女將さんと云うてやるには少し若し
顏いろがわるいなアと　それがあいさつ
あんたにプラスにならぬのなら考えるわと女
ほつとけばいゝのに女の耳飾りが氣になり
今日もピースの煙と暮らす
二号をもつて子に意見せず
又せんじ藥を妻に嚥まされる
うんそうだそりアそうだとたかられる

川柳を通して 学校の裏表を語る

摩天郎＝では、皆さんがお揃いになりましたので、川柳を通して学校に関するいろんなお話を願います。学校も学生も戰前と戰後では余程変つたようですが、先ず入学のお話を古方先生から……。

古方＝大分前の句に

合格發表ライカでとつて父は去に

と云う句があります。これは入学試験の発表の場面ですが別に見ていなければ氣がつかないのですが……。私の眼にフト撮つている処が見えましたので、これは父か兄か分りませんが、戰後物の無い時分にライカを振廻している のが、川柳らしいと感じて詠んだのです。ライカで撮つているのが新聞のニュース写眞のように、泣き笑いの場面の雰囲氣を撮つているのでは無く自分の身内の者の確かに入学しているのを大写しにとつているのでした。そこを見付けた句です。

丁路＝入学の発表の光景を見てると隨分と嬉しいもんらしいですな、今年でも「万歳」「万歳」と言うて帰つた者が相当ありましたです。しかし其の時の事はすぐに忘れて一年もすると自由やとか何やとか文句を盛んにならべるんです。千舟さんの句に、

入学日小使さんもお辞儀されと云う句があります

と云う句がありますが、私が以前に勤めてた学校ではそれと反対に先生が小使さんと間違われた（笑声）と云う話があります。これは終戰後、先生か小使か分らんような身なりをしていた時の話です。

白香＝私もこの小使さんの句はいゝなアと思つています。喜びを表わす一つの表現と云いますか、入学が出來たよろこびが、小使さんにまでお辞儀をするほど確かにそんな氣持がするだろうと思います。

古方＝情景がよく出ていますね。

丁路＝まだ外に、

入学の僕のお膳に鯛がつき（草々）

と云う句がありますが、此の句もその喜びを表わしていると思うんです……。

白香＝皮肉かも知れませんが入学試験前には、知り合いでもないのに、ホンの一寸した縁故で頼みに來ると云うような句がありましたネ。

丁路＝私共もそのような経験があるのですが、学校の方としてもそんな事を一々聞いていたらきりがないし、又頼む方もそれで必ず入学さしてもらえるとも思つている人も無いでしょうが。

摩天郎＝頼まれたと言わず、云うて來たから報告しとくと云う、ことづかりが多いですな。

白香＝全くあの手、この手ですネ。子どもよりも親の方が眞剣ですからね。

丁路＝これも前の学校のことですが、七十才位のお婆さんが発表を見たと云つて、飛び込んで來て今発表を見ると落第していたが、何んとかして呉れとピッタリと手をついて拜まれた事もあり、そうかと思うと、うちの子供は全部出來たと言つているのに、何故落したと言つてドナリ込んで來る場合もあります。そんな時にはアナタの息子さんもよく出來たのでしようが、それ以上出來た人があつたので……と宥めて帰すのに仲々骨が折れました。

入学式寄附の趣意書が配られる（十九平）

摩天郎＝私らの時代には寄附の趣意書は配らなかつたです。校長が寄附の事を言うと、反つて五月蠅いのです。後で何やかやと引つ掛りになつて、やりにくゝなるのです。P・T・Aが出來てからは、その方でのことを云つていますがね……。以前は寄附を言うと、寄附以上に無理を云われますので……賢こい校長は後援会も作らなかつたようです……。

白香＝御時世ですか。此の頃では寄附の分割拂がありますね。（笑声）

摩天郎＝途中で寄附をやめる。後が続かずと云うのもありますよ。

古方＝先の丁路さんの入学の時の話ですが、出來た出來たと云つて、出來たためしがなく、出來た出來たと云うのは大抵出來てないのです（笑声）これは確かにあの年頃の子供達の中にある川柳味でしような。

丁路＝子供にしても、親に試験が出來たかと言われて、出來なんだとも言えないんでしよう……。親はカンカンですから……。

古方＝こんな句があります。

書いたもの証據零点なども出来

これも私の句です。入学試験なんかではこの句のように書いたものが証拠になる零点がかなりありますが、普通の学期試験などでは零点でもプラスアルファはつきますからね。

丁路＝それから内申書が全部よくても、試験が悪く、内申書が悪くても試験が良いのも

ありますなア。

摩天郎＝試驗官が横に居てた爲に書けず、家へ帰つてからその問題をやらしたらスウスウと出來たと云うような場合もありますね。

古方＝(暑くて上衣をぬぐ)弱心臓の子どもなんですね。そんな点から考慮したのか、今年の入学試驗の時でしたか「監督に行つても机の間を歩くな」と注意されました。二三日前終つた中間考査の監督に行きましたが、アレ位、退屈な、しんどい仕事はありませんでした。

白香＝確かに同感ですわ。

古方＝喋べるのであつたら一時間が二時間でも平氣ですが、何しろ四十五分間にしろ、默つて、しかも泥棒の番人見たいに、可愛い教え子であり、信じなければならない子供達を、半ば泥棒の様に睨んでいよと云うんですから、これ以上じんどい仕事はありません。然も、ご存じの通りの私ですから生徒の机と机の間を歩きでもしようものなら、鉛筆を落すやら、ゴムを彈き飛ばすやら……監督なんてもう結構ですわ。

白香＝古方さんのお説の上に、監督の上に又監督がつく有様ですから、先生はつらいもんですわ……。淡舟さんの句に、

ペケをしてさて女教師の思うこと

と言う句がありますが、女教師の生態が割にうまく描かれていると思います。自由朗さんの句に、

女教師の痛手教室でもうずき

と云うのであります。昔の女教師に対する考え方と大分変りまして、此の頃では女教師も人間並みに扱われていると思います。(笑声)(前は神さんですかの声あり)山雨楼さんの句の

女教師と警官一幕物になり

となると、どうかと思います。私は女教師の立場からです……。

古方＝人間性と言えば私の句に

リンがなるとたんに捨てる

標準語

と云うのがあります。ところがリンが鳴らん前でも標準語でなく、大阪弁の方が、工合がよさそうです。從つて、

先生が慌て生徒が又慌て

と云う位の事は、そう珍らしい事でもありません。(笑声)

丁路＝最近生徒の言葉も大変汚くなりましたね。態度にしましても、服のポケットに手を入れて先生と話をする生徒が多い。何んとかならぬものかと何時も考えていますが……。

摩天郎＝学務課として参観に行きましたら、男の生徒は敬礼をして呉れましたが、女の生徒はお辞儀をして、後で舌をペロリと出して、呉れました。(笑声)

白香＝女をギャクタイですね。

摩天郎＝電車の線路で礼をされて困つた事がありました。アレはあぶないですからなア……。

丁路＝電車の中でも前は氣を付け礼！とやつていたんですからね。

白香＝確かに男の学生が、男らしさを失つた以上に、女の学生が、女らしさを失いましたね。

古方＝此の頃は、伸び方ダイと云うのか、何時かの卒業する子供へのサインに、

恩なんか知らずすく〳〵生徒は伸びる

と書いたら妙な顔をしていました。だがそれでいゝのジヤ無いかと思います。私の方は女の子ばかりですので、

あやまりに来るに女生徒つれがいり

白香＝「あやまりに……」の句は、女学生の共通性ですわ。

古方＝私の中学の時分には職員室へ入ると云えば、ぬき足さし足で、窓の外からソウーと伺つて、おもむろに、それもビクビクしながら入つたものですが、今の私の方などは市場と云うか、ヤミ市と云うか隨分賑やかなものです。

白香＝特に若い先生などですと贈物の順迄決つていますそうで、とつかけ、ひつかけね。

丁路＝私らの学校は共学ですが、女の子は活潑なもので、ショートパンツで堂々と教員室へ這入つて來る。そして男の方が長いズボンで這入つて來るんですからね。

白香＝此の頃は女の子があやまりに來ずに、男の子が代弁して「僕が仲裁に來ました」と云うて、(笑声)あやまりに來ます。サインの事を言われましたが、サインブックと女

出席者

戸田古方氏　飯降白香氏　福田丁路氏　八木摩天郎氏

(田中月丹氏)

学生の句は川柳には多いです。

女生徒の憧れサインブツクさげ　（三葉）

と云うのがありますね。

丁路＝卒業式の後なんか、殆んど全部がサインブツクを持つて來るので、先生は惱まされています。

白香＝女の子には「愛」と云う字を、男の子には「勇」と云う字を書くことにきめている先生があります。

古方＝此の頃は男にも傳染つている様ですね。

丁路＝平生は色んな文句は言つていますが、

教科書に落葉はさんでまだ純情　（牛歩）

などは、まだ純情な所がありますね。

白香＝話は変りますが、男の先生はパチンコは如何です。

古方＝私は下手ですが、うまい人もいます。段を持つた人もあるとか言う話ですよ。

丁路＝今パチンコの話が出ましたが、

校長がパチンコやつた夢を見た　（方大）

社会学の意味で時々はやつてもいゝと思いますね。

白香＝私の学校など「玉友会」と云うのがあつて、会長以下幹事等の役員が揃つています。まだ投資だけで配当が無いらしいです。（笑声）男の先生も、女の先生もですよ。（笑声）

摩天郎＝次に学生の「アルバイト」は如何ですか。

丁路＝高校にはアルバイトは少いですが……。

白香＝私の方は、相当ありますよ、此の頃は家庭の事情よりも、遊ぶ小遣儲けですね。（笑声）

古方＝休暇中で無くてもですか。

白香＝理科の標本作りなど、今でもずつとあります。

古方＝私の方は、三年生の終りにならぬとやらない。父兄からも、何故うちの子をアルバイトにやるかと突込む父兄があります。

丁路＝私らの方も夏休、冬休には相当行く、海水浴や旅行など行く爲に……。

古方＝一般にアルバイトの金を学資にする人はすくないようだが、就職の下稽古の意味でならいゝでしようね。

白香＝満年氏の句に

アルバイト大きな夢があれば こそ　（敏責）

これは学生だけではないでしようがどんな夢か、クエスションマークですね。

丁路＝

アルバイトしても学べる幸に生き

此の間も授業料がおくれた子の家庭を訪問して調べたら大変貧困であつたので、こんな事情なら奬学資金とか、授業料免除の方法があるので、そうしたらと云つたら、自分達としては人の厄介にならず、どうにかやつて行きたいと思つてアルバイトをさして、授業料を拂いますと云う感心な家庭もありました。

古方＝そんな子供は私の学校にもありますわ。

丁路＝又中には奬学資金を貰わにや損やと云う工合に、理窟をつけて申込んでくるのもありますネ。

白香＝中には厚かましく、入学式の日に申込む心臓もありますよ。（笑声）

丁路＝そんなのは親としても考えるべきですね。

白香＝私の方では一年生は受付けぬ事にしています。

丁路＝草骨氏の句に

蹴り合つて樂しい旅の宿に寢る　（九州修学旅行）

と云うのがありますが、生徒の方は樂しいかも知れぬが附いて行く先生方は隨分苦労な話で痩る思いをされると思う。

白香＝今年の「櫻塚」見たいだと、どう云う氣持がするでしようかね。

丁路＝私も二、三回ついて行きましたが、東京なら東京へ行つて、自分の知人の家へ行くなら、何時に帰れと嚴重に言つてあつても、十一時、十二時になつても帰らない。その爲に心配して警察へ捜査を願い出そうかと思うような事もありました。そうすると、いつの程か帰つていて、默つて自分の室にもぐり込んでいる、他の生徒もかばうのか何にも言うて來ないと云うような事もありました。

古方＝私は泊りがけの旅行は行つた事はありませんが、それでも、

引率は解散をして眠くなり

と云うようなもんです。

白香＝私は九州へ生徒を連れて行きました。男の子で急に轉学して來た子には連れが無い。そうでないのは大体連れがあつて、アベックを作るがその子は連れが無いので私がアベックの片割れに選ばれた事がありました。（笑声）すると生徒の考えがよく分りますね。又教室と旅行中に見る子どもとは性質が違う、旅へ出ると本性があらわれます。

摩天郎＝川柳は前から共学ですが、学校の共学をどう考えますか。

古方＝共学は色々と批評されます。私どこは共学で無いので生徒が來るのだろうと思いますが、共学の方が良いように思いますね。

白香＝共学の方がプラスが多いようですね。

古方＝先生をステツキに使うのはケツサクですね。（笑声）

白香＝男の子の方が女の子より可愛いですね。女の子の方が、複雜怪奇です。私、男ばかりの学校へ行きたいのですわ。

丁路＝先生が二遍同じ女の子に質問したら問題が起るそうですね。

古方＝私ら十何年女の子を教えていますが、そんな事言われた事ありません。

丁路＝此の間、学藝大の先生が新任で來て、ネクタイを派手にしなさいと女の子に云われたそうです。

共学へ孔子の影がうすくなり　（風津）

白香＝

共学の樂しさ趣味も變り行

く

と云う句もありますよ。

摩天郎＝共学やつたら男の方が親切でしやうレディーファーストで。

白香＝男の方があきませんね。

摩天郎＝男の先生に叱られたら子供は泣きませんが、女の先生に叱られたら泣きますね。

古方＝私はよう叱りませんけど。

白香＝女の先生は、政岡の短刀でこれでもか式ですからね。

丁路＝

共学へ教師の方が妬けて來る　（晴夫）

共学になつた当時は面白半分に、手を繋いだと言う事も聞いたが、今では世間で思う程でも無いと思います。

古方＝此の頃、よく問題を起すのも女だけの学校の方が、多い様ですね。毎日一緒だと善い所、悪い所が分つて問題を起さないのですね。

白香＝源氏なんか講義すると男の子にニヤニヤ笑われるのはつらいですわ。参りますわ。（笑声）

古方＝男の子が開放的なのでしよう、女の子は分つても知らぬ顔をしています。（笑声）

白香＝「伊勢物語」の「つゝ井筒」の所で男の子が「その後どうなりました」と質問したので「その事は「伊勢物語」に書いてありません」と逃げましてん……古方先生、あだ名のある先生は愛せられてるんですね。先生あだ名ありません？（笑声）

古方＝前はあつたんですが、今は知らん。こつちは「つけてくれ」と云うのやが、叱らんからなア……。（笑声）

摩天郎＝P・T・Aの句と云えば殆んど寄附の句ですなア。

丁路＝P・T・Aはよい意味の句はありませんね。寄附か衣裳くらべか……。

摩天郎＝P・T・Aは分らぬまゝに、学校のご無理御尤で聞いてるのでしようね。

チョンガレをするに講堂明る過ぎ　（古方）

これは何かの機会でP・T・Aの会食を講堂でやつた時に出來た句です。こゝらが現代日本のP・T・Aの姿じやないでしようか。どこか堅い所があつて、そのくせ外へ出たら軟くなりましてね。

白香＝

P・T・A妻は社交の積りで出　（ゆづる）

と云う句があります「丘は花ざかり」あたりでしようね。

摩天郎＝P・T・Aの出席率は九分九厘まで女ですね。

古方＝小学校のP・T・Aが一番活潑でしよう。中学、高校はかなり離れた所から來ていますから。

摩天郎＝学校の成績などを聞いたりするのも女の方がうまいですからな。

古方＝子供の事にかけてはお母さんの方が熱心ですからでしよう。

摩天郎＝入学についても母の方がウンと熱心ですな。

白香＝私の方ではP・T・Aの時、人がなかつたら先生がかり出されていますわ。P・T・Aや無いか云うて。所謂「サクラ」ですかなア。（笑声）

丁路＝

P・T・A家の用事が出來ません　（てるよ）

と云う句がありますが、本当に役をする人はお氣の毒ですなア。

摩天郎＝最後に卒業について……。

古方＝

女生徒の別れ録音して見たし　（古方）

これは、卒業を詠んだ句では無いんですが、或る女の先生が、轉任される時に作つた句なんです。けれどその狀景は実に、派手で目が暮れても、時間がたつても、まだ泣いているんです。これは女学校の風景でなければ無い風景でしよう。変な先生で、あんな先生に別れてどこが悲しいのかと思う位な先生だつたのですが、泣いているのです。これはそつくり其儘卒業式に当てはまります。泣くのは一つのエチケットで、派手に泣いて、派手に晴れるんですね。全く夕立見たいですよ。始め泣いて、又卒業証書授與の時に笑う。そして職員室で泣く、又生徒同志泣く派手なもんですわ。

白香＝私も泣く方ですね。答辞の時泣いて「仰げば尊し」で泣き、又挨拶に來た時ポトポトと涙を流す。

古方＝日が暮れてからの狀景が

追いかけて来てまで女生徒の別れ　（古方）

です。卒業の泣く話であつたら女の方でないとだめですよ。兎に角派手なもんです。

丁路＝私の方では共学ですから女の子の方は泣いていますが男の子の方はそれを見ておかしいのでクスクス、ニヤニヤ笑つてると云う風景です。

古方＝男の子の方はついて泣く所まで行きませんか。なるほど、そうですかね……。

白香＝

卒業へ理想と違う職に就き　（山茶花）

これは男の子の方でしようね。今はこんな時世なんですか。

丁路＝

卒業の字が履歴書へ恥しい　（舞扇）

と云うような句もあります。

古方＝

會者常離螢の光すまんとす　（古方）

これで、まあ、兎に角それぞれの希望を抱いて散つて行く訳です。

摩天郎＝それでは此辺で……。どうもありがとうございました。（春巣雑記）

川柳塔

池田市　戸田古方

さわさりながらぬるま湯の有難し
怖い人見失うたのが怖し

尼崎市　水谷鮎美

藤椅子のいねむり詩集風まかせ
竿竹がどさりとおちた葱坊主

大阪市　市場沒食子

銀婚の今なお妻の手内職
代筆の祕書は私情もさしはさみ
喰へぬのでもう一人旦那探して居

横浜市　福田山雨楼

横綱もやがてヤヤヤで痛々し
改進党袖をひかれて野暮に見え
いたつきの泌尿のことも夢に見る
新聞で護摩焚くように痰を燒く

ホノル、市　内藤草一郎

無い奴の眼からは道樂者にされ
はねられた姿影にも恥かしい
爪彈が止むと仲居は寄りつかず
不機嫌と見たかをんなは遠く坐し
人の後あとへと損の味知らず
引退をしたら不用の應接間
不機嫌で坐れば一輪差しが搖れ
まだ年が別れ話しに躊躇せず
派出位ひ我慢しますは特價品
顏よりもからだと二度目のを頼み
若がつて居ても歩けば追ひ越され

ホノル、市　白砂旋風

新機械着く度毎に失業し
心まで腐りますぜと旅に出る

布施市　吉田水車

デンデン虫ピカソのような跡をつけ
はるばると大阪へ來て身を落し
西川もダンスも通る戎橋
花の茶屋チヤツカリ組へ儲からず

祝吉田万次氏参院当選

当選を祝う今宵の遲櫻
晝の風呂みんな失業かとおもい

大阪市　正本水客

人波をぬう嬉しさの春の服
腕時計外して立つた舞扇
主婦といふ自覚エプロンたゝむなり
旅役者役者をやめる日を思ふ
鉄びんのあつた暮しを懐しみ
感謝することを知らない娘に育ち
少年の孤独を考へてやろとせず
日本に住みアリランの花見する
編棒の根氣アプレの娘にもあり

大阪市　丸尾潮花

淋しさを女も酒にして唄ひ
テキライス女ばかりのなかで食べ

大阪市　北川春巣

唯に似て次女おしやべりに生れつき
宿題へ救いお風呂の誘が來
慰安会だしに着物を新調し
愛人の母へ奉仕の文樂座

奈良県　尾崎方正

きやしやに持つカストリ雜誌指白し
前髪がもちや〳〵してる女なり
悲しみに慣れて継兒の眼の動き
派手好きな妻と別れて祝はれる

下関市　櫻川不水

老夫婦小溝を越すに助け合い
滯納はがり版すりでおどして來
油虫燗ざましの中で死んでゐた

大阪市　武部香林

能無しが寡默な人と敬われ
お茶漬が喰いたしとエヤーメイルにて

出雲市　尾綠之助

腹立てゝ見ても勝つたにはならず
スランプの上に首きりのしかゝり

大阪市　水谷竹莊

高下駄で板前が來る仕舞風呂
婚約へ結納の金まだ出來ず
恐妻と云われてもよしためてゐる

下関市　國弘半休門

盲点を突かれたと云ふ自己批判
たまに着た私服へ受付念を入れ

京都市　大鶴喜由

師の住居柳を折れて小半丁
忠君愛國の額掛けて思出の余生

大阪市　吉田斜水

花便りはしかの子等と絵本見る
やがて又ねだられるなり鯉のぼり

吹田市　野本呑水

象の眼に遊惰の民と映るらん
先生を見舞つた窓で虹の歌　尼崎市　小林文月

駅名を呼びあう兒らに花吹雪
或日フト妻にすまない空想し　大阪市　富岡淡舟

病名に触れずリンゴを置いて來る
彼も人なり教員の逃避行
せめてもの三時間茫として居たし　奈良県　飯降白香

理性といふ限界のもろさ夜の街
未亡人馳引ばかりがうまくなり
教養が愛情までも批判をし　奈良県　西辻竹青

眞実よ女々しいなどと言はないで
これからが友情ですと切り出され
深刻な恋の勝負にぶつつかり　山口県　長野井蛙

持参金男に頭上げさせず
入学の青い眼の子は祖母がつれ
恭に勝つて金借る話いゝそびれ　京都府　間島青丹子

死ぬまでの地位とは少し淋しいね
感傷へ女の膝の温かさ
日傘さすおしやくカメラに取卷かれ　大阪市　麻生梨里

ニュールックが泣くよな講談ばかり読み
「美しい暮し」を読んで平社員
足組んだとこだけ女優さんに似て
ベール着た様に消えゆく雨の島

未亡人仲居に出たいのをもらし　岡山県　直原七面山

愛情はベタつくことゝ心得て
誕生日を祝い合う程深い仲
旅は好きよと女遠廻しに
ぬかるみえ逢曳の足重からず
出張え愚妻読書のプラン立て
貧乏はもう沢山と妻家出
心中の片割れ者の手記が賣れ
君はロマンだと相手にして呉れず　宇部市　上林粗影

派手な噂を女否定せず
バルコニー諸君諸君と叫びたい
わかめわかめ俺の生活に似てゐるよ
雀の恋もう墜ちそうな鬼瓦
この集ひバット喫ふのが俺一人
唖の手眞似を淋しくも見守りぬ
淋しさは神官の内職をソッと見た　西宮市　石岡正司

税務署を多弁の妻が引受ける
折鞄税吏に過ぎたものを提げ
女教師の夢は女優を志願する
青年を又つますかす夫人の瞳
令夫人愈々やせて嫉妬する
マネキンのやうに新調身につかず　大阪市　西森花村

僕の家花道程の路地の奥
金よりも頼りにならぬ俺かいな
大観の富士は砲声せぬ昔
人の下に立つ相があり親に似て

ペタル踏む腰のモーション偉大なり　兵庫県　田代尋四

やる瀬ない心が終いに浮氣する　兵庫県　家沢斉花

かろうじてバットの喫える養鶏か
伊勢参宮電車のおそいのに呆れ
父の日もあつてよいとは敷かれてる
嫁よりも牛の大事な舅さん　東京都　藤本満年

憲政の神を落して左派が伸び
情報社長に達せず社員飲み
その会社粋な借金取が來る
チューリップスタイリストという姿　熊本県　西口如川

さすらいの身に秋風の冷た過ぎ
見慣れてる眼には名山とも見えず
僞善などゝ見られたくない氣をつかい　岡山県　福島鉄兒

お願ひをする信心は蔑すまれ
恐妻家バラ〳〵の記事寒う読み　東京都　藤本茶々

銀座銀座金のない事忘れてる
お隣の景氣四五本木を植えた　大阪市　塩浜一路

ぼつ〳〵とお説教になり左様なら
食堂のおしやべり一つ食べただけ
叩き賣り一尺当りを暗算し　大阪市　西いわを

優遇もされず辛抱する強さ
母さんが甘えた口をしてみせる

愛のこと二二が四では割切れず
終電車疲れた顔と酔ふた顔
恥を恥と思わぬ男で逞しい
岡山市　服部十九平

尼崎市　長谷川三司
贅沢は云ふまい派手な掛蒲團
みなさんの食堂煙突見える窓

兵庫県　若林草右
花散らす風病窓をくゞりぬけ
ほの〴〵と何か持つてくる春の風

大阪市　足立春雄
爪先の視線女は知つて居る
思う事別々なれど春の宵

熊本県　有働芳仙
お隣も君が代までは起きて居ず
一宿一飯眠れなかつたとも言えず
倦怠期猫もちよい〳〵喰いはぐれ
ふつつりと止めりや少しは飲ませたし

岡山市　延永忠美
PTAうちの女房が委員さん
税務署の次に学校がしぼりあげ
読まれずに公報弁当を包まれる
労組の幹部にこんなやさ男
ぼつん〳〵と國旗淋しそう

下関市　石川侃流洞
俺だけの損でないのをうれしがり
競輪とは知らず妻の送り迎え
義理堅いのが雨に來て待ち呆け

大阪市　安岡珊枝郎
湯豆腐に飽きりや奴の夏となり
海岸へ移つて眞水の有難さ
華々しく立つたが供託金とられ
カツギ屋を時代錯誤と見送りぬ
週末に來て團体並にあしらわれ

岡山県　大倉四案
パチンコは損と見拔いて飲むときめ
勤続十年あいもかわらず箒もつ
恋知つてからの日記は長くなり

玉野市　中村ただみ
國訛りまで氣にさわる倦怠期
死んでからいゝ人だつたなどと言い
ヂリ貧はにわとりまでも締めちまい
母の日の母へおしつこひつかける
ごめんねと言われただけの足を見る

大阪市　山本葉光
競輪に來る自轉車のあづかり所
逝く春の海のボートに浪があり
船のない沖逝く春を淋しませ
人間の弱さドンチヤン騒ぎする

倉敷市　木村千容
たてついて見たが比重がちとちがい
もう五十なのにぼつちやん氣が拔けず
特急に乘つて無心の子が戻り

岡山県　田垣方大
酒が出て給仕上りをさらけ出し
約手の話になり技師は喰ふばかり

大阪出張
あんさんは油くさいと酌ぎにきて
商魂は俺等如きを上座にし
郷土史を飾る出世に蔭の母
文化の日悲し学者で喰へぬ國
月賦とも知らず婚曳服を褒め

石川県　野村味平
何がようて代議士なんぞとさげすまれ
一服吸ふて掃除のプラン組み
中共から連れたワイフは下駄が好き

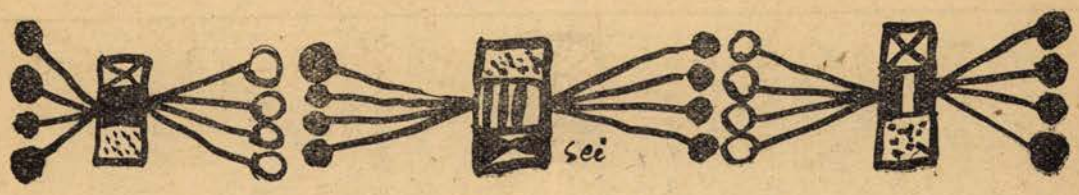
大阪市　木村水堂
標語とは逆な國会議員出來
自由党支持する程に金が出來
薯のツル食べた時代をもう忘れ
橋の下こゝも生き拔く煙あげ

熊本市　花岡英子
人の血の逆流三面記事となり
愛すればこそこばむのにこばむのに
昭和生れ一円札はふりむかず

堺市　八木摩天郎
役人は退職しても利にうとし
授業料のそれさへ父は疑うよ

高槻市　福田丁路
草花の首を飛ばして氣を晴し
默々と人を燒くのに精を出し
血が匂ひ綠が薫る療養所

岡山県　水谷谷水
お隣にも借りがあるわ淋しいね
薄化粧今宵はなにをねだる氣の
キザつぽいわりにミヽチイ若社長
あんた純情型ねと酌いでくれ
しめ出したつたを妻君自慢にし



あつさりとしすぎ女給にたかられる
岡山県　椙原一善

同じ服三日着とらぬ社長秘書
この村の平和が娘にものたらず
仲人がすきな社長にねらわれて
岡山県　田村藤波

向きかへて乳房の肌へ風を入れ
女房の尻でズボンの皺をのし
座布團を床屋お次へ裏返し
岡山県　岡田夜潮

蒔き終り出雲詣りを思い立ち
ウィンクに見えたか樂屋のぞかれる
岡山県　中谷仙坊

宴会の幹事で踊る氣になれず
花の下巡査淋しい顔で過ぎ
岡山県　坂井三葉

再軍備せぬから母は左派が好き
舞鶴へもとの他人になつて着き
義理一つ缺かさぬ父の達者なり
岡山県　政田大介

酒を酌ぐ手つき初心やなと思ひ
ひとの氣を知つているよと路郎選
福引の等外に似た妻をもち
大阪府　青柳扇子仙

この顏でまだ〳〵あほにようならず
ピーナツにその場かぎりの嘘たのし
ずけ〳〵と地金をさらけ出す氣性
茨木市　下山清潮

残業を終え病院に子を見舞ひ
君見給え女一人は靜かだろ
岡山県　本田惠二朗

生理日の心がさせた罪かなし
駅長も顎紐おろす櫻どき
大阪市　眞鍋一瓢

大阪に住みつくつもりケチつかず
君の代はそれで良かつたドレミファソ
泣きじやくりほつとけ彼のボエムだよ
怨敵の如く女將はボルつもり
あつさりと恋も戦後派カットオフ
賣り喰いえもう貞操が残るのみ
京都市　松川杜的

開運の望みも消えて四十二
女性欄どれもこれもが許してい
金盞花今日は亡母のお命日
駅長と話せば嫁を持てと云う
大阪市　永田六龍子

出し合ふて社長え贈る鯉のぼり
手を引いて抱いて櫻の通り抜け
目に青葉又喀血の頃思ひ
鳥取市　森本方泉子

貧相も中程度なり易者の辞
泣き寝入る顏へ母が來祖母が來る
岡山県　井野格一

投票日よそに貸切りバスが行き
名案は色の違つた羽根を賣り
鳥取県　日置文郷

男みなふがいなく見ゆ女子大出
氣の長い投資のお蔭山みどり
大阪市　佐野中歩

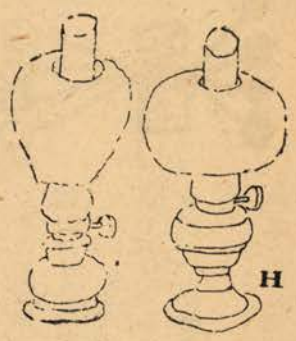
君に貸す爲めに蓄めてる金でなし
それ程に着たけりや藝者にでもなりな
自轉車で眞すぐ帰える恐妻家
落選の候補へカンパさせられて
大阪市　後藤梅志

中の島風景
四轉車阿修羅の如くペタル踏む
手錠とる方が悪人臭いなり
豊公へ今も躑躅がまつ盛り
大阪府　小池しげお

食堂の子食堂で飯を食べ
暴君へ酒の値段を下げるとか
漬物にされず大根花が咲き
寝過してオールバックにして出かけ
地下鉄に乗つても外を見たがる子
佛壇も買へて操を誓ふなり
兵庫県　竹内圭三

中共の服ぬぎすてる青疊
開店の花輪朝から雨になり
均一のタイ上になり下になり
大阪市　山崎帆加夫

湯の町で見る噴水も硝子越し
お隣りは一夜で死んでこわがられ



川柳と俳句の区別に対する私見（四）

―栗林農夫著「俳句と生活」を讀んで―

戸田古方

九　川柳の本質

川柳が川柳として持つて来た。そして将来も守りつゞけて行かねばならぬ本質はどこにあるのでしよう。

私は「おかしみ」と批判性であろうと思います。

夏目漱石は

「悲劇と喜劇と比較して、悲劇の方のみに重きをおき喜劇を軽んずるのは謬見である。悲劇も喜劇もその価値は同等で更に軽重がない。悲劇の起る事件は概ね死ぬか生きるかという問題だから重大には違いなく、又人の心を動かすことも強いが、悲劇に泣くばかりが人生でない笑いの間にも人生の機微はあるのである。しかし各々特長はある。即ち悲劇は血の色を以つて人の心を動かす様な場合が多いからどこまでも現実的で又実感的であるけれども喜劇は赤い血の色で人の心を動かすという様な直接に胸を突く感じがなくて、いつも談笑の間に進行して行くのだから、この方は間接的で、どちらかといえば空想的な傾向をもつている。或はこんな所がひよつとすると軽い様に思われるのかも知れない滑稽というものは、たゞ駄洒落と嘲笑ばかりではない。嘲笑や罵倒が真の滑稽ではなく、笑いのうちにも深厚な同情を有するのが上乗である」

柳人の眼から見れば世の中のほとんどあらゆる事が喜劇に見えます。悲劇を裏返しにすれば喜劇なのだからであります。血を見るような悲劇もみな人間の慾にからまつた揚合が多い。そう見る時すべての悲劇を喜劇ともみられるのであります。

笑いは進化する、おかしみも進化する穿ちも進化する。真理と合一したら喜怒哀楽から超然する。もう悲劇も喜劇もないその時川柳は解消するのであります。

川柳の批判はこんなところから生れます。絵画にしても音楽にしても、文学にしても美に酔う種類と批判性をもつ面を分析することが出来ます。

新らしい絵画の中にも批判的なものがあります。漫画はもつともわかりやすい批判画です。ピカソの「ゲルニカ」とか「殺戮」とかいうのもそうです。漫画を穿ちの句にもたとえればピカソのゲルニカや「殺戮」は社会批判でしよう。そして素人眼には難解な一連の抽象絵画も見方によつては批判的要素をもつています。抽象絵画はカンデインスキーとモンドリアンがそのはじめに位置する人でしようが、カンデイスキーがあゝした絵をはじめたのにはこういう話がつたわつています。

「四十年余り前の或る日の事、Kは終日戸外で風景の習作をやつていたが、日が暮れたので絵具箱をかかえて帰つてきた。薄暮のアトリエ、そこには一枚の素晴らしい絵があるのに驚いた。その絵は言い様もなく美しく、そして内面からの光に輝いていた。彼は離れたり近ずいたりしてこの奇妙な絵を一心に見つめ、そして驚嘆し続けた。その絵には形や色だけがあつてそれが何であるかさつぱり分らなかつた。突然彼は気がついた。彼が以前に描いた絵が壁に立てかけてあつたのである。唯そむきが間違つて縦のものが横になつていたのであつた。

「翌日になつて昼間の光の中でもう一度観てみた。ところが昨日の半分も美しくはなかつた。それは夕方の薄い光線の魅力もなく又例え横向きにしても何が描いてあるかはつきり分り過ぎるからであつた。彼は、そこで形が分るという事が反つて彼の絵の美しさを損うのだと気が付いた。彼は自分の足下におそろしい深淵がぽかりと口を開けている様な気がした。

このKはいうまでもなくカンデインスキーです。絵は何かの形を写すものであり、又それでなければ美しくないと思つていたのに「何の形か分らなかつた時は美しくて分つた時には半分も美しくなかつた。」

カンデインスキーはそれから例の奇怪な抽象絵画をはじめたということです。

モンドリアンの方は最初写生的な絵をかいていましたがやがて立体派の影響をうけて対象を解体して描く様になりました。それはまるで絵から象形文字、象形文字から甲骨文字、それから篆書、隷書とすゝみ楷書、行書、草書、そして平仮名にまでくずれていつたような解体が行われていつているのです。芸術の破境の様にも見えますが彼自身は「芸術は、破滅の淵へ放りこまれた時こそ芸術の真実の内容だけが残るのだ。」

「芸術は変形するだろう。それは最初に我々が触れ得る身辺の環境に於て実現されて行くだろう。それから社会的に……それから、いつか我々が全ての生活が本当に人間的と言えるものになつた時、その生活自身の中に於て芸術は実現されているだろう」

このカンデインスキーとモンドリアンの記事は一月号の美術手帳

から引用しましたが、今まで見むきも出来なかつた抽象絵画理解への光明を得たように思いました。私はこゝへ場違いな絵画の事を長くかきましたがカンデインスキーの場合もモンドリアンの場合もともに我々に真理発見の一方法を教えてくれたような気がします。丁度「薄蘿草」の句に於ける発見と同じようにそれと同時に川柳の世界にもこれと同じ様な驚きと発見が川柳飛躍をなさしめるために恵まれることを祈らずにはいられないのです。

旧臘十二月二十九日NHKから朝の訪問の時間、路郎先生訪問の放送がなされました。この一文の最後にその概要を述べて結びとしたいと思います。

「…川柳と俳句との境界は動物と植物との境界みたいなものです。犬と梅とは区別出来てもアミーバの様な所までゆけば区別出来ません……」「海岸の松は逃げだす姿なり」という風に川柳は自然をよんでも人間味がみなぎり何等かの批判がなされています。同じ松の句でも俳人芭蕉は「清滝や波にちりこむ青松葉」と写生し描写します。

川柳は人事詩ですから「恋人を逃すまいとて嘘をつく」というような句も出来ます。したがつて川柳には世相の反映が強烈です。「かゞやくや元より金に鑛せし身の」という剣花坊の句がありますが、伊藤伝右エ門と白蓮女史の事件の頃かと思われます。あの頃はいやいや金持ちの老人に嫁したものですが最近では生活にさえ困らなければ四十すぎでもかまへんというのが若い娘の通念です。「ねこ入らず外にリンキの手を知らず」昔はこれより知りませんでしたが今日では自殺どころか本妻をころしたり、バラ〳〵にしたり、女が強くなつた。歳末風景にしても「大みそか何べん来ても手があかず」昔は掛取が右往左往する町に門松、しめ縄、もち花、そして質搗屋が鉢巻しめてエッサホッサである。街頭放送をきいてたら「金がないのに正月も何もあるもんか」とアナウンサーが叱られている。……大人もサンタクロースに何かいれてもらいたいと云う御時勢である。とにかく正月らしくなくなつた。」

「初夢ですか、私は年中夢をもつてます。「人類は悲しからずや左派と右派」社会党を別に詠んだのではありません。右と左だけが正しいのではない。人生を楽しみよりよく生きること、……川柳で朗らかな生活を打ちたてること、ザメンホーフ博士のエスペラントも、列国にはさまれたポーランドが言葉の通じないための悲劇を解消し平和を求めようとしたザメンホーフの夢。夢ではなかつたがそう思うようにはまだゆかぬ。川柳は人間を陶冶する。それでも川柳が一つぺんに世界に拡がるとは思われない。ある世代、ある地域の平和は川柳によつて実現する、是非実現させたいのが私の夢である」と。

十　あとがき

蛇足的なテーマをとらえすでに「川柳は俳諧の滑稽味を伝統的に生かし、俳句は芭蕉の正風によつて「わび」とか「さび」とかを生かす短詩となつてそれぞれの道を歩みつゞけているのであります。本筋から見れば途中の道草的な変遷と枝葉的な傾向まで述べる必要はありますまい。甚だ簡単でありますけれども、川柳と俳句とは右に述べたような柳歴と俳歴をもつているのでありますから同一の内容まで歩み寄らぬ限り柳俳無差別論はなりたゝぬのです。」（新川柳講座）といつていられることを論じ立てました。「案外その境界線の句に於ては川柳人がつくれば川柳として扱われ俳人が作れば俳句として扱われる訳であります。（新川柳講座）で落つく問題かもしれません」。

いろいろの方の著書よりおことわりなく引用もいたしましたし、ことに俳人には失礼ないゝ分もあつたと存じます。深謝します。浅学の私に諸彦の御教示を賜れば幸甚に存じます。（完）

同舟近詠

松山市　前田伍健

鮎の宿すゝけランプで喫ひつける
御自慢の竿鮎つりの腕でなし
漫画家も吉田の顔をかき飽きる
象が藝忘れそうなる雨つゞき
どちらにも金なし友情持ち続け
十円貨落した音も寂しいな

金沢市　安川久留美

久し振りひげ剃る紙幣も無ささうな
疑うでなかつた書類出て來たよ
牧水の歌にうなづく燗かげん
釈迦に説法巡査若かりし

大阪市　麻生葭乃

蜃氣楼と思へ財布も人も樹も
リブトンのかをり窓から夏が來る
ノールスと知られて肩の荷をおろし

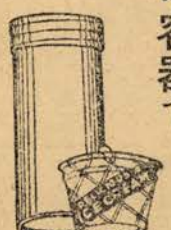
大阪市　橋本緑雨

赤字百万円重役の太りやう

長野県　高峰柳兒

税務署へ折れて押す判まかせおき
再建はいきなり馘首沙汰へ触れ

アイスクリームは
堅牢で衛生的な
この容器で



酒販用紙コップ食堂用紙製品一切

特殊紙器工業株式會社
フタバカツプ株式會社
大阪市阿倍野区晴明通一丁目
電話天下茶屋 (66) 2802・2803

母いまさず

中島生々庵

昭和十七年の夏、当時九州に居た母から盲腸炎にて危篤なる電報を受けた当時その転倒した心の乱れは

今の今こう迄もろい俺を知り

と自嘲しながら九州路を飛ぶ様に馳せつけて衰弱し切つた老母を外科病院に運んで、その道すがら

この道が火葬場へ続く日もあらん

と凍てつく心臓をおさえて大手術敢行。母である患者と子である医者とが抱き合う様にして奇蹟的な二週間を経過する。

俺は醫者だそうして母の子でもあり

手術口の抜糸も見届け往きとは全く別な明るいすが〳〵しい胸を一ぱいに拡げて凱旋将軍の様に帰つて来た。それから丁度満十年あれもこれも皆返えらぬ思い出になつて昨年五月三日とう〳〵母は遠い旅立ちをして終つた。瞼の裏の母の顔にひかされて今綴る筆の運びもにぶりがちになる。絶対に母は再び帰つて来ない。その「絶対さ」に直面した瞬間、崩れ落ちる大地の揺らぎ。

十年前の時には取り乱して幾度となく電報を読み返えし乍らも

来る時が来たさと妻へ強く見せ

等と妻の前に強がりに似た余裕らしいものを或程度持つて居たものが、今度と云う今度は躰の細胞がちり〳〵に砕け飛んでほんとうに抜け殻になつて終つた。

半歳に亘る一進一退の症状は同僚や先輩諸先生の限りないお力添えによる加療で時に一縷の望を得たかに見えては又逆転する。痛いとも云わず素直に注射も受けて必らず有難とう有難とうと云い添える。

外に手がありそうでありそうで又迷い

然し母の心構えはすつかり決つて居た。自分が亡くなつた後遺族の悲しみ歎きに就いて一ヶ月も前から私達に云い聞かせてくれるのだつた。「たとえ肉躰が亡び眼に見えず耳に聞えずなつても、心の眼心の耳の生活は一向に変つた事はない。お隣りの家に一寸別居する様なものだよ。何時でも呼んでくれたらお前達の胸に還つて居るよ」

お浄土はすぐお隣りの壁一重

そう云つて枕元に家族を集め仏壇の御燈明へ正信偈を唱じさせ自分は歓喜の涙を出して居た。その姿は丁度私達が昔母の待つ故郷へ帰る休暇の前の朗らかさに変りはない。何と毅然とした信念の姿であろう。自分の身辺の諸々のものに心からの感謝を捧げ、看護に疲れる家族の上にも細かい心遣い。その慈と愛とは七十八年の母の生涯そのまゝを縮図として私達の胸に今更の様に灼きつけてくれる尊い姿である。

ふか〳〵と七十年の母の徽

遺骨を抱いて大阪駅で皆様に送られ、九州での本葬儀をすます。色々と事務的な時の流れの中に一応は心得たつもりで人前は押えて押えして居ても仏間に一人坐つて「おん身等の孝養厚きに対してはお礼の言葉も無之……」等ともつたいない遺書を読んで居ると申訳ないやら恥しいやら、こみ上げて来る熱涙に身も世もあらず狂わしい悶えが五躰をしめつけて来る今一度今一度だれに祈るのやら、ぼんやりあらぬ一点を見つめがちになる。こんな時に私みたいに気の弱い奴は家族や眷族さえなかつたらどこかの水に身を投じて終るだろう等と愚かな考が時々襲つてさえ来るのである。

職場の忙しい事を口実にお仕えする日の少かつた私の我儘を今更の様に呪わしい。なぜもつとやさしくして上げなかつたか、なぜお寺詣りのお伴を再三申上げなかつたかお好きだつた文楽もお芝居もなぜもつと〳〵……。母の澄み切つた信仰の前にこれは又何として愚痴な男だろうと笑われてもいい。だれも居ない所で大声で泣いても見たい。も一度お母さんと呼んでも見たい衝動にかられる。

佛壇へそうつと母を呼んで見る

日に疎くなりそうになし母戀し

いろ〳〵の思い出はみんなお詫びの思い出であり愚痴の思い出である事が私にとつて耐えられぬ悲しみの姿で迫つて来るのである。十六ミリに出て来る母三笠山の麓の茶屋で足弱を休めて居る母、心斉橋筋を運動のつもりで散歩の日課とする母、御堂筋の自動車の流れを横切つてお寺詣りをする母……もうこれ以上筆が進められぬ様に胸がつまつて来る。

母と往く心齋橋の片日照り

お名残り惜しいまゝに仏壇に奉仕して居た御分骨も何時までもこうあつてはお粗末になる恐れもありとやつと心を取り直し昨年十二月家族一同お伴して京都西大谷本廟へ納めさして頂き、月々三日の命日には職場に就く迄のあわたゞしい早朝の時間ではあるが、暫らく浄らかな廟にぬかづいて母の膝に抱かれた甘える心地。又朝々の勤行は母に教わつた経文の節も懐しくほんにお浄土はすぐお隣りの壁一重と母の言葉をしみ〳〵と有難く今更大悲の力に摂取される身の倖せに気付かさせて頂けば合掌せずに居られなくなる。

拜む心大いなる力身近かなり

去る五月三日、よろめき乍ら歩いた三百六十五日目が来た。家族一同を連れて西大谷の納骨堂に詣り西本願寺に御回向をお願して夕方帰宅。涙新らしい裡にさゝやかな法要を営み母の慈愛に満ち満ちた遺影の前にひれ伏して御冥福を祈る。その日路郎先生から

一周忌雲をとうしてなつかしむ

の玉句を頂き感激はその極に達した。こうして私は又明日への道を歩き始めて居る。

この稿は後日愚息等に讀ませるつもりで走り書きにして居たものを路郎先生のすすめによりゆし筆を入れたもの、私事に亘るお讀みつらい点を恐縮して居ります。

人間横丁（Ⅲ）

東野大八

鼻

さきごろこの欄で、天皇様と皇太子さまのことを書いたら、私の若い友人が〃天皇や皇太子をとりあげるなんておよそクダらんね〃と至極面白くない顔をした。どうも当節の廿代のインテリというものはとかく一言居士が多いようだ。もつともそういう私自身が、この年頃にはそんな言い方をよく口にしたもんだつたが——。思うに人間というものには年齢層に応じてものゝ観方考え方が異るものらしい、この筆法でいけば二十歳でコムミュニスト、三十歳でソシヤリスト、四十歳でリベラリスト五十すぎれば自由党という段どりになるらしい。

ところでその若い友人への話ではないが、天皇様のことを書いた私に、こんなことがあつた。その話というのは六年前にさかのぼる。時に私は四国O町の支局長。そこの地裁支部のO判事というのが公判中に卒倒してそのまゝ死亡した。医師の診断は栄養失調による過労死という。私は直ちにそれを記事にした。「ヤミ米喰わぬ判事栄養失調で殉職」そういつた風な見出しでその記事は派手に社会面のトップを飾つた。これがそもそものこの話の発端である。

その記事が出た翌日、M市にある軍政部本部から私に出頭命令が来た。当時泣く子も黙る赤い丸に進の字つきの封筒。ハテね、何の用事だろうとその時私はなんの心当りもないまゝ小首をひねつて無造作にそれをポケットに収めたものである。当日指定の時間に私は軍政部の門をくゞつた。光るリノリユームの床、白い壁、尻の埋る結構なソファー、豪華なそんな応接間で、私は小一時間も待たされた。所在ないまゝ私は、部屋の一隅にかゝつた大きな鏡の前に何気なく立つてみた。すると思わず痛い苦笑がわき上つてきた。無精髯で真黒な顔、ぼうぼうと逆立つ油つ気のない髪、隈の浮いた眼のあたりは、目脂までがこびりついている。襟のほころびた開襟シヤツに色のさめたサージの合服、それになんとしたことだ、くの字形にまがつたよれよれのズボンの下に靴ならで下駄をつゝかけている。ご丁寧にもその下駄たるや支局内ではき廻つているちびくれはてた普段ばきときている。薄汚いこんな態で、ところもあろうにこの場所へよくもまかり出たものだ。いまそのときの私を考えると、大陸から片腕にされて引揚げ、ルンペン生活八ヵ月。肚の底までしみついたその貧乏性に、敗戦後の至極無造作な、時の最低生活が裏づけた。そういう風に考えるより解釈のしようがない。〃今からせめて床屋にでも……〃そう思つたときは、すでに遅かつた。通された部屋には三人のGIと一人の日本人がいた。

私は大きなデスクを構えた将校の前に、日本人の通訳と並んで腰を下ろした。他の二人のGIは私の後に座をしめ、どうやら速記でもとるらしい。ところで私の前にいる将校（階級は大尉）だが、これがなんともはやまことに壮大な鼻の持主。一見鼻の周囲に顔があるといつた工合。私はその鼻を眺めて、まずベリカンを想像し、しかる後ゴーゴリの「鼻」を思い浮べた。ところでその鼻の将校、入つてきた私の姿を一ベツするなりよにも不快な表情で、廻転椅子ごとくるりとそつぽを向き、いきなりべらべらとしやべりはじめた。それを引取つて通訳氏。

「貴下の書かれたあの記事は、まつたくの真実か」

「イエス、すべて真実です。それが？」

と不審げに私。通訳からそれを受取つた鼻は、いきなり私に開き直るような態で叱咤した。

「あの記事は日本人の末路を暗示する、反政府的記事なりと当方は解釈する」

「はあ？」

と私はおうむ返しに奇妙な声を立てた。間の抜けたその声に、通訳氏が思わず吹き出した。とちめん棒を喰つた私の汚い顔つきも面白かつたのだろう。その通訳氏しばらくは笑いやまなかつた。しかし笑いながらも小さい声で

「落ちついて、大事なところですよ」

と注意してくれた。その声に私ははじめて通訳の顔をみた。頭のはげ上つた、人の好さそうな四十男である。私はなぜかその顔に安堵し、そして心中（これは容易ならぬことだ）といさゝか緊張した。

笑つている通訳とぼかんとした私に鼻はますます不機嫌になつた。矢つぎ早の質問がかくてはじまつた。彼我の問答を述べると長くなるので割愛するが、先方様のいうことを結論ずけると大体つぎのようになる。

「日本人の食糧は政令により一人いくらと規定し、それに必要な主食の不足分は当方からも出している、絶対に飢餓による死亡はあり得ない。殊に司法官においてはその身分と生活は、日本政府において固く保証されている筈である云々」

これに対し私は答えた。

「主食の配給は成程保証されているが、それは量に止り質がともなつていない。米の代りに小石のようなとうもろこし、芽の出た馬も喰わないタネ芋。これが米麦にかわるカロリーになるとは毛頭思えない。で不審なれば近くの町村に調査に赴かれるとよい。随つてわれわれは高価のヤミ米を少しでも食したいまた殉職した判事は海外からの引揚者で、個人的にも私は交際しており、彼の家庭状況は誰よりも私は詳しい。七人家族にあの号報では、ヤミ米購入なぞ彼の一家には思いもよらない。私を責めるより先に、彼の家庭的実情と彼の死を確認した医師を調査して私を取調べる、それが順序ではないのか。法を護る司法官がヤ

近作柳樽

路郎選

誤診されすんでに腹を切るところ　広島県　黒本　芳泉
老妻にこんな爺が妬かれたよ　同
歌舞伎の美だけを外人観て帰り　同
何んとでも言へと押掛け女房なり　同
山羊よもつと寢させろ正月だ　同
世間体ばかりを女苦労がり　同
スキ焼の一足違いネギばかり　同
仲人の智慧とも知らず逢ひに行き　玉野市　渡辺あきら
廻轉椅子何時かペンダコ消えていた　同
三日臥りや三日の赤字のしかゝり　同
吸殻も段々上役らしうなり　同
氣胸していたまに花は散つちまい　同
笑いながら義足へ靴を履いて見せ　同
石の床看護婦の恋知つている　貝塚市　宮本　甲馬
石の床まだ悟れない〳〵　同
石の床オカズは鼻で知つていた　同
石の床妻の針先追うていた　同
石の床啄木ならばなにを詠む　同
ギプスまだ短氣を癒す器にあらず　同
注文もしない料理が來て慌て　大阪市　木口　賀峰
お情で入社出來たをもう忘れ　同
赤ランプ女いら〳〵して來だし　同
聞く人がさくらばかりになつて止め　同
正午まで待てど女は來ないまゝ　同
新調の背廣鶴田と同じ型　兵庫県　吉原　紅月
一等車選挙違反がそり返えり　同
阿呆ばかり云うて注文とつて去に　同
黒帯も愛の言葉に他愛なし　同

赤目四十八滝にて

滝の音愛のさゝやき聞きとれず　同
引揚げの子等德球を高く踏み　赤穂市　川西　去水
明治時代と昭和時代と家がもめ　同
金があるように仲人言ひたがり　同
ある命こうまで捨てる青春譜　同
借りものつくめの婚礼写眞派手に見せ　同
お人好し嘘をゆつくり聞いて居る　大和高田市　岩垣日本村
二本目の煙草で用事まだ云わず　同
好く出來た造花と蝶が知つて居た　同
アプレ派は罰が当つて薄笑ひ　同
泣く迄は喧嘩も樂し幼稚園　同
失恋と間違えられる髭が伸び　岡山県　松村　怠坊
賢夫人外出先は特價品　同
さあ飲みネエ喰いネエとのどかな船路　同
頭撫で髭をさすつて言訳し　同
金を貯め妻哀れにもふけて見え　同
大掃除日記の隠し処をかえ　倉敷市　野田素身郎
えゝまゝよ美人が買つた車券買ひ　同
鼻の差で負けた馬券は捨て切れず　同
尾上に出て読み返すラブレター　同
夏をまず足の水虫から覚え　同
風みどり女いよ〳〵美しい　大阪市　不二田一三夫
喰うてチョンまだその下があるそうな　同
お母ちやんは幸福ですよと嫁つた娘が　同
文なしになれば女優のクソ度胸　同
いつ働くのかと都会を見て戻り　愛媛県　村上　旭童
後から抱きたいセルの肩の線　同
あほらしや酢が買うて來たビールびん　同

ミ米に手をふれず殉職した。この行為は美談に属する事実であり、時局下まことに得難いニュースと私は判断した。ところで私はさらにつぎのことを補足したい。敗戦下の国民生活は苦しい職をもつ私とて、この風態さぞお感じの悪いことと察する。左様なわれわれ日本人がその生活の辛さから世情に反撥し政治を批判するその事柄の一つ一つが共産党的言辞に走るのはまことにやむを得ない。その人人の偽らぬ訴えや言葉をもつて直ちに彼は共産党なり、反政府的なりというのはその人にとつてまことに心外まことに迷惑なことであると思うが如何「天皇について貴下はどう考えているか」必要だと思う。かりに天皇を排して共和政党としても天皇にかわる大統領の人選だけでも大変な混乱を招く。天皇制を廃して人間天皇を置く。これはすばらしい措置だと思う。とにかく天皇を置くか置かないかこの問題は私個人の問題でなく、すべての日本人の全人格的なものにまつより致し方がない」要するにこの問題については貴下が日本人になつてみないとわからない、話はそれからだ。取調べは随分長かつたが結論は無罪放免だつた。随つて当時いわれた沖縄行きにもならずにすんだものゝ、この話には後日譚がある。M市の川柳大会

小便のしたい高さに橋かゝり　同
待ち佗びるのへ中共の氣の長さ　今治市　長野　文庫
庶務課へは女將一應改まり　同
良緣が十指に足らぬ皇太子　同
蟷螂の斧にも似たりフリゲート　同
高校を辷つてからの藤間流　岡山市　津田麦太楼
食べちらし漬物だけを誉めたロ　同
大部屋で膝を抱いてる老作者　同
帰國者に都道府縣の旗がゆれ　同　久家代仕男
夕燒小燒子は長々と花の土手　出雲市　同
賣りつける口調になつて輪がくづれ　同
どちらへも動けますよと蚯蚓這ふ　同
修理さへ效かぬラジオを押へられ　同
スクーターおつちょこちょいを乘せてゆき　三原市　山田　桂角
指切りをせまる女の手の粘く　同
親しめる看護婦さんは母性型　同
さて金となつて皆んなは口つぐみ　同
成功を金と悟つて悔もなく　石川県　山田　陽々
出世せぬ父を理解して淋し　同
溫泉の中に分別臭い顏も浮き　同
不機嫌のもとは損して斗りいる　同
千円の余裕隣の家も無し　大阪市　魚住　滿潮
近衛東條あゝこの人もふしあわせ　同
法律にふれぬ盜人ばかりの世　同
俺の目のとゞかぬとこへ行けと言ふ　同
死ぬような恋をしたいと言ふ女　佐賀市　南川　光男
松茸を眺めただけの市場籠　同
まゝ母もやつぱり泣いた母映画　同
孤兒ある日胡坐をかいた丘の上　同
年の差をいわぬ娘へ脈をもち　大阪市　長田　塗杖
十年を一日にしてまだ次席　同
年頃へヘチマの水も採つてあり　同
返り咲く日へ馴染さん一人くる　同
工夫病むスコップにまで見離され　大阪市　岩垣一点子
お揃いのはつぴ奉仕と云う姿　同
天罰を人ごとだから軽う言い　同
老優の國宝級を酷使する　同
あのなお父ちやんと言つたら金のいる話　姫路市　難波　愁夢
幹事さんは貴郎と耳を借りられる　同
子を連れた課長に猿の前で逢い　同
帰朝談女のことに一寸触れ　同
味噌汁のカロリー主婦として覚え　米子市　大山　裾乃
標札も氣がねして打つ二階借り　同
痩せてると云へば看護婦機嫌よし　同
改造を読むに特2の窓がよし　同
元住友の別荘と言う家で飲み　大阪市　吾郷　玲人
ビルの裏四五日前の雨を溜め　同
大阪の土産話に橋の数　同
パチンコで騒がれている不二洋子　同　友松　白道
言ひ寄ればマダムの皺の深いこと　貝塚市
無理するなてふ挨拶も儀礼めき　同
結核が恐くない様な看護ぶり　同　戸田麻由美
屋上の恋スリッパのまゝで逢い　大和高田市
風切つてジャーナリストの忙しさ　同
越して來たざあます夫人人氣者　同
宿直の筈が溫泉宿で浮き　岡山県　岡本　薫翠
喜びの料理庖丁がリズミカル　同
退屈へ退屈をした碁打が來　同
辛抱をして資本家をもうけさせ　大阪市　清水　望峰
なぜ俺に腹を立てさす妻となり　同
子を思ふ親と親とがいがみ合い　同
パチンコに行く間に髭も剃れるのに　岡山県　長尾　越鳥

に出ての帰り駅前のばい一屋でばつたり、あの時の通訳氏に逢つた。期せずして双方たゞ何んとはなしに親しげな至極暖い握手を交しあつたものであつたが、彼のいわくである。貴方のあの風態には驚きましたな。しかしかえつてあれでよかつたんですよ。実感が出てましてねはじめ私も貴方のこと心配しましたがね。案外貴方はユーモラスな方でしたな。うん川柳をおやりで成程それだからでしようかね。うまくいつて後で私はホッとしましたよ。実は私も引揚者でしてね、貴方のお気持と全く同感でした。要するになんですな、人間つて真実が大事だが、この真実からもまた人間は絶えず迷惑もかけられる。真実つてあなたよくよくせんじつめるとあの将校さんの鼻みたいなもんですよ。

山銀の瓶
大阪市大淀區長柄
榎通一丁目四四
山銀硝子株式会社
電話堀川四四七番

結婚と恋とは別と言ふて嫁き　同
先づ臨時々々と軽くあしらわれ　同　森本黒天子
闘病へ愛人のまゝついて來る　大阪府　同
残してはすまぬ弁当を拾てゝ去に　同　小川学
又かいなとやつぱり嬉しい男の子　大和高田市　同
墨つけてそれから一度宙に書き　同　笠井勢波
全集の傍にしよんぼり立志傳　同　岩川寛虚
キツスするまでが日本は手間が入り　同　中谷河太郎
大掃除古い辞令のなつかしく　大阪市　同　岡田青果
大掃除一疊残して晝餉する　同　高橋操子
かけ出しですと仁義のやうな挨拶し　同　戸田悦子
臥てみえるところ鉛筆画の樂し　愛知県　同　佐藤房子
借電話囁くように逢ふ日きめ　同　同　藤井呆声
不甲斐なさ母の日母に見舞われる　同　同　岸本木魚
姑の情が嬉し病み上り　大和高田市　同　辻圭水
姑へ似て來た妻の生活ぶり　同　同　戸田嘉一
大世帯の食卓税吏見てかへり　同　同　岡本元馬
神様へ孕まないことまで祈り　岡山県　同　同
これしきの坂を彼女はしんどがり　同　同　同
握り飯下界と違う味で食べ　同　同　同
卒業のサイン乙女の夢をのせ　岸和田市　同　同
書く方も少し不安な延切手　同　同　同
飴の手が母の晴着へ用捨せず　同　同　同
本妻と言われる地位を子がさゝえ　大阪市　同　同
結婚を姉の暮しを見てしぶり　同　同　同
雨降つたらしい映画の帰り路　同　同　同
五月雨がホームシックにする下宿　大和高田市　同　同
農家にはすまない程の豆になり　同　同　同
話好き來て呉れたので縫い上り　同　同　同
貧すれば娘の化粧も疑はれ　岡山県　同　同
ひさ〳〵に訪へば無心も喜ばれ　同　同　同

一合で三日樂しむ父の老け　同　同
良妻は夫のうそも知つて居る　貝塚市　同　辻圭水
煙草屋の娘が嫁きて税も減り　同　同
日雇に死ねと云うのか雨期近し　同　同
伸びて來る子供へ釜が小さすぎ　大和高田市　同　戸田嘉一
姑は嫁の料理へついてゆき　同　同　同
ライバルの前でおごつた負惜しみ　同　同　同
負けぬ氣の母親と言う口が過ぎ　高知市　同　岡本元馬
痩せる藥も賣れて世の中面白し　同　同　同
避妊藥の賣行よろしと開く産婆　同　同　同
手内職聞いて來て女房しようとせず　大阪市　同　岡山子
何思ふ次男ロシヤ語受験する　同　同　同
厭なことも言ふが世話もする社長　同　同　同
ちやんづけで呼ばれおかしい年になり　岡山県　同　風野風の子
尻の出る様な羽織が流行し　同　同　同
紙芝居下駄片ちんの子も交り　同　同　同
夫婦とも肺病と言ふ仲の良さ　貝塚市　同　津田千舟
別荘も賣つたに参院選に落ち　同　同　同
慰める方の軀も頼りなし　同　同　同

妻心臓弁膜症にて急逝

なぜ死んで呉れたと人のいない夜　大阪市　丹波大路
夕闇に透かせば亡妻に似し姿　同　同　同
納棺へ職業的な公益社　同　同　同
女秘書社長好みの髪で來る　東京都　同　石居高志
結局は取られる税に喰ひ下り　同　同　同
外人が乘つて自轉車小さく見え　同　同　同
ノータイは物忘れしたように見え　貝塚市　高崎雄声
哀願が沈まりかへる投票日　同　同　同
十円の買物に世辞氣が引けて　同　同　同
光景を語る繃帯血がにじみ　和歌山県　岸本木魚
竣工もせずに人手にもう渡り　同　同　同

頂門の一針

吉田水車

四月十五日附中部日本新聞の「中日春秋」欄を要約すれば、「鼻さきに飯粒つけし猫の恋」一茶であろう。句の批評から元々俳諧はコツケイをしるすなりとする古き俳画の序文を紹介してこれを幽雅へと洗煉したのは芭蕉であるとし、元来コツケイは人間に特有のもので、また複雑なものであるがゲスなものである。それ故にこそ野趣雅味をそこにくみとり得るのである。たゞそれは一隻眼が無いと解らないとしている。コツケイに愛情を加え、それを洗煉したものが幽雅な俳趣だと断じ、洗煉とは愛情の深さから来るのでそれが浅ければ（笑うだけでは）川柳となる。問題は愛情にあるとしている点、我々としては無関心では居られない。おもうにこの欄の筆者の川柳認識の程度は要するに川柳は浅薄な笑いだけであるとしているに違いない。それを一新聞のかなり重要な論説欄で公表されているのは正に我々川柳人にとつての頂門の一針であつて深く反省させられるものである。今私はこの筆者に反駁する気持はないがたゞこの筆者の眼にふれた川柳がどんなものであつたか引例してもらいたかつたのである。

頼りないながら上司のアンパイヤ　岡山県　同
螢まで俺を小馬鹿にツイと逃げ　同　小林　夢介
顔を見る僞電と知らず案じて來　同
百姓へ嫁きお作法も無駄になり　同　鳥井　川島
あの月に雲が懸つて詩にもなり　愛媛県
だまつて居よう相手にとって不足あり　同
此の次の選挙秋かと氣の早さ　同
金がなくなると知らず夫婦喧嘩する　福岡市　岩田十三楼
次男もう思春期と言う逞ましさ　同
追いつきなさいとコップですすめられ　同
落成式御寄附の順の席に着き　岡山県　光好三四詩
人の事言わねば話ありません　同
窓の下春を忘れぬ花が咲き　米子市　勝田　正郎
基地の子は習わぬ経をすぐ覚え　同
無理をして買ひ死を急ぐスクーター　岡山県　富岡　青柳
空腹は滿たして呉れぬ海の景　同
目に余るものは市住の二号宅　大阪市　中江破天荒
肴屋の匂は錢湯まで続き　同
まだ一人でつかと行商にからかわれ　和歌山県　美野百合子
藤の花咲けど語らう人もなし　同
生活のスランプふけを又落し　岡山県　大塚美能留
職さがすこの退屈へむちを打ち　同
轉落の一歩大阪駅に下り　石川県　杉浦　酔羊
サンダルが脂肪ふとりをのせて行く　同
形見分け老眼鏡をもらつとき　岡山県　佐々部蕭俊志
健康優良兒の父なんと貧弱な　同
出張を好むは夏の甲子園　出雲市　原　独仙
子が炊事母母の日に氣が疲れ　同
無遠慮に子に乳のまし世帶じみ　今治市　越智　一水
泣き通し寝た子の顔のいじらしさ　同
日雇の手だと易者にすぐ判り　米子市　小西　雄々
世辞のよい易者で何か物足らず　神戸市　松尾　天信
終電の車掌へ〻れけことずかり　同
花を愛しませうの立札根に倒れ　同　國正兼比羅
役得の未練と言わず又出馬　岡山県
町長になつた安堵の母が死に　同
パチンコがありゃこを避けた倦怠期　出雲市　佐藤まさる
引揚の兒に珍らしい縄叩き　同
あの顔で何とかミスによくもねえ　石川県　福田　卓風
道ならぬ事した後は寒うなり　同
氣に向けば牛も使へる娘です　岡山県　繁松　玉露
愛妻家今日もちこくの判を押し　同
下駄箱の整理捨て切れぬ下駄ばかり　京都市　鈴木　誠史
カーテンの中で洋装出來上り　同
童貞かと問われてそやと言うをいた　豊中市　森　彦　六
女房貰うてからのリアリズムよ　同
新茶飲みうつり変りし世を歎き　児島市　難波　鴻峰
箱に椅子重ねて予想屋は叫び　同
女世帶ネズミに迄もあなどられ　熊本県　鹿本　実信
氣の弱いくせに女房に小言云ふ　同　沖　一糸
グローブの様な手をして子をあやし　岡山県
麦笛を持たせてしばし草を取る　同　河揚　梵鐘
孤独とは谷間へ分けて入る釣師　貝塚市　同
出発の前に名物おしえられ　同
カーテンをあけて都会へ欠伸する　松江市　原　章坊
病人が苺の赤さ買つてゆき　同
毛糸編む妻へ吾が子が宿るとか　岡山県　穂北ペン郎
新婚の障子が白いのも樂し　同　戸部　龍馬
拗ねるのが玉に瑕だと母叱る　芦屋市　同
雨が止むつもりで入るニュース館　同
男とは漕ぐだけの役貸ボート　大阪市　松元　利行
娘の手帳流行歌だけ書いてあり　同

かつて大阪朝日新聞の天声人語欄を川柳ばかりでうずめられた筆者は別に賞めもくさしもしなかつたがこの筆者は俳誌「趣味」を主宰した俳人であつたけれ共伝統俳句にあき足らず大いに既成俳壇に挑戦されたものであつた。

川柳が単なる笑いの所産であるとする悲しむべき認識はこれは偽らぬ大方一般の声であることは事実である。このような、言い替えれば無理からぬ印象を与えているのは外ならぬ川柳作家の責任であると言える。勿論幾多の名句佳吟はあつても、それは川柳人同士の言う事でまだ一般の人の眼に映る作品は上記のような結果になるようなものではあるまいか。

俳句の中興に力のあつた正岡子規氏も「コッケイも亦文学なり」と断じているが、そのコッケイ観は上述の如き理念から来ているのであろう。このコッケイを愛情によつて育て上げる別な役割を持つのが川柳であるから浅薄な笑いとだけに言い放つ訳には行かない。

路郎師の常々さとされる所の「いのちのある句」こそ笑いに出て笑いを超越するものである。

新聞社早い田植を写して來　山口県　德光　秋人
足跡がハッキリ残る苗代田　同　池田　古心
ワンマンに添ふ妻母の日とてなく　岡山県　同　靴隠しビール注ぐ術知る女
かけ出しの図太さ社長のお氣に召し　和歌山県　貝岐　爆子
施をそんなに嬉しくされたのか　同　基地にした恨み大臣罷めさした　貝塚市　小田　柳叟
スタンドをつけて二人の春深む　同　満員車彼女素早くもう坐り　岡山市　宗高八ッ茶
返品の雑誌土足の跡もつき　同　春四月こんなにもある保護願　和歌山県　久保田青竹
競馬へと言へぬ借金してしまい　同　基地のバー裸女シャンパンをついで呉れ　貝塚市　芝原　洋史
父も子も浴衣で先に出て涼み　同　須磨明石予期した程のどこでなし　三重県　中森　澄子
意地張りは好きなればこそとひにく　同　議長三年今や上座に据り慣れ　滋賀県　土守トン坊
新宅の嫁ミシンさえ踏めばよく　同　封筒を使ひわけてる十八九　貝塚市　小島さぎす
藤の花好きとは母に似て内氣　同　花の留守今日ぞ悠々性書読む　大阪府　小沢　文糖
花疲れ何の祖國へ踊見に　芦屋市　黒田　一十
こんな顔してるかいなと写眞見る　大阪市　兒島與呂志
帰りなんいざ故里の山青し　岡山県　福島　宵花
表札がちとでかすぎた二階借り　大阪市　清水　祇三
お待ち兼ねですと女將は愛想よし　石川県　栗山　桃園
三味なんか無意味だ僕は破調です　石川県　細呂谷魯木
病んで居て株で儲けるすべを知り　倉敷市　赤木　秋月
喧嘩にも成らぬ相手へ負けて置き　奈良市　絹下　南天
決闘をするとは言わず遺書を置き　岡山県　中尾　貞教
ライバルのいやに背廣似合ひ　大阪府　ヒロミ
居眠りの得意の人が立候補　大阪府　松吉　南風
ボーイとは五十前後のクリだった　佐賀県　鶴田　乱舞
無茶苦茶でゴザリマスと父も眞似　和歌山県　谷口喜久治
巡回のポリも朗か春がすみ　大阪市　池戸　桃村
課長より失礼ながらうでがきれ　愛媛県　高木　不朽
買ふ人もあるかと思う骨董屋　和歌山県　松本　竹外
親ゆびをならしておいてパチンコや　大阪市　松尾　ちよ
嘘ばかり言つてと娘うれしがり　和歌山県　田中無津美
母の日に子のない母のなほ淋し　貝塚市　堀井　一峰
オルゴール妻にもあつた少女趣味　大阪市　野田　勝己
総選挙人物よりも義理に負け　山口市　田中　秋穂
電話口へ念の入つた四月馬鹿　大阪府　竹林　小雀
泥棒に備えた犬が盗まれた　大阪府　仁科　高峰
教へ子に教へられてのマヨネーズ　大和高田市　横田　紅涙
内職の毛糸に励むあてがあり　大阪市　永田都詩子
勝景をたゞ汚してる花見客　大阪市　中谷ハナ子
行々子が葦動かして黄昏れる　岡山県　安原　秀魁
バス代をしまつして來て雨に合ひ　貝塚市　中辻　芳男
此の辺に雲雀居たかと刈る手やめ　鳥取市　泉　北鳥
年次休暇取ればお見合かと言われ　大阪市　西川　惠風
浴衣着て上座下座も草津節　和歌山県　西岡　春風
そのかみは何もなかつた顔で嫁く　石川県　桑山　とよ
子の重さ夫婦代つて抱いて見る　和歌山県　岩崎　君代
長壽法読めば知つてる事ばかり　大阪府　横倉慢多郎
ヘソクリの迂闊休戦知らなんだ　大阪府　中辻　橋村
花吹雪ベレーの上に二つ三つ　大阪府　明石　舞子
洋ダンス茶道具ミシン嫁くばかり　岡山県　梶尾　節子
質よりも量が喰いたい回復期　大阪府　阪井三四郎
引揚は早やパチンコに馴染みなり　大阪府　生島　蕪青
しみじみと悟す婦長の姉に似て　大阪府　増田　風順
野次馬の中の一人は僕だつた　熊本市　高野　宵草
北浜の買つた帰りを稲荷様　大阪市　橋本　忠師

故郷の米と卵

山本　葉光

路郎先生の川柳生活五十年の半分近い私の川柳道を励まして、共に歩ませて下さる豆秋さんに対しての御恩は数々ありますが、兄が海南島に行つてた頃、母が病んで困つていると、豆秋さんはその頃の最も尊い米と卵を持参して下さつた。それで母は七十九才まで、生き続けていたと、母も喜んでいました。

その頃の豆秋さんの句が、

ふるさとへいやしん棒をしに帰り

です。その他に、川柳家だつた吉川英治氏の「宮本武藏」の朝日新聞の切抜きを、五六枚たまると送つて下さつた。

兄が千島に行つてた留守に焼出された時も、「川雑」のバックナンバーや雑記帳、便箋、ペン先等を下さつたのも豆秋さんです。

奈良の富雄に疎開してた時も、妄夢さんと尋ねて下さつたのも豆秋さんです。

雑草も灰の中から立ち上れ　豆秋

と云う句から、豆秋さんの愛情のこまやかさをしみ〴〵と感じます。

一路集

里帰り

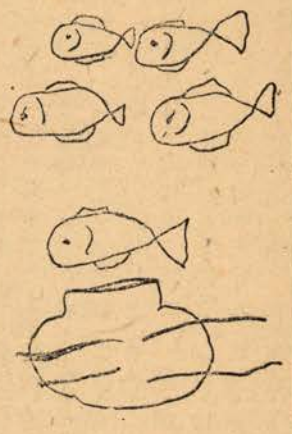
尼絲之助選

買い足した土産が重い里帰り　日本村
自転車で荷物が先に里帰り　末魚
鶏も猫も待つてた里帰り　南天
里帰りすんで落ち着取戻し　芳泉
里帰り智慧を嬉しく見せに来る　黒天子
アパートの鍵を預けて里帰り　十九平
里帰り往復切符あてがわれ　同
里帰りこんな夫であつて欲し　方大
里帰り朝寝する娘をふびんがり　英子
妻の声里の明りにはずんで来る　満佐志
さとの記憶を辿るバスに揺れ　光男
愛妻家らしい笑顔の里帰り　満年
真剣に母訊きたゞす里帰り　葉光
生娘のタイプで通る里帰り　喜久路
愛人に土産持たした里帰り　太路
両親のある倖せを里帰り　トシ坊
面映ゆい駅とはなりぬ里帰り　吞水
里帰りどの戸も昔の音であき　賢二
里帰り奥様という顔になり　悦子
里帰り今日は夫に見送られ　嘉一
御近所へ宜しく頼む婿を連れ　古心
里帰り隣近所へ抱き歩き　五風
里帰り友も子を連れやつて来る　菜々女
喧嘩して来たとも言えず里帰り　賀峰
里帰り妻のお供で気が疲れ　登志晴
里帰り又里帰り別れる気　寛峯
里帰り今度の村長同窓生　牛歩
里帰り自慢と違う不倖せ　怠坊
里帰り友の好意の同窓会　房子
子の出来ぬことが淋しい里帰り　青丹子
二人して水車へ廻る里帰り　鮎美
里帰り先祖の墓へ詣らされ　同
何よりの里へ土産の孫を抱き　光郎
里帰り見違えられる変りよう　与呂志
里帰り言葉の端にうちの人　文笑
家二つ持つ幸福な里帰り　雨季舟
里帰り混血児を産みおとし　芳仙
仲人と一緒悲しい里帰り　同
出戻りの姉にすまない里帰り　谷水
里帰り菜種の花がまだ続く　和友
里帰りして倦怠を乗り切る気　桂角
ちと思ひ知らせるつもり里帰り　一点子
生れ来る子の名も決めて里帰り　雄々
共稼ぎの決意も語る里帰り　直人
満佐志佳・共稼ぎの決意も語る里帰り　トシ坊
光男佳・里帰り熱海のことも訊ねられ　五風
満年佳・三日目は留守が気になる里帰り　水堂
葉光佳・離婚する覚悟を決めた里帰り　勢波
喜久路佳・里帰り食べて笑つて寝て帰り　代仕男
太路佳・里帰り子をいそ〳〵と先にたて　敏子
トシ坊佳・出張の夫待つ間の里帰り　凡骨
吞水佳・へそくりを母にも分ける里帰り　十九平
賢二佳・自転車の荷台に乗つて里帰り　葉光
悦子佳・心配をさせぬ惚気の里帰り　賀峰
嘉一佳・離縁とは当分言えず里帰り　五風
古心佳・金策もかねた女房の里帰り　雅楽太
五風人・村中の話題さらつた里帰り　黒天子
菜々女地・里帰り甘えて欲しい母にさせ　日本村

看護婦

大森風來子選

看護婦を妻にもさせる開業医　賀峰
医院午後看護婦子守をさせられる　古心
少女の日夢にまでみた看護服　房子
看護婦の口から医師の渾名洩れ　怠坊
看護婦の美談は天使の字を使い　さぎす
看護婦の恋もやつぱり熱を出し　五風
婦長又何か貰つた声になり　芳仙
看護衣を脱げば陽気に笑ふ齢　良坊
看護婦のほくろひやかす程に癒え　恵二朗
看護婦は母親のような口もきき　呆声
看護婦の気強さを知るピンセット　摩天郎
看護婦が痩せたいようにうており　秋月
仮病とは好きな看護婦だけが知り　薫翠
退院の度に看護婦写される　悦子
看護婦を頼り切つた目で迎え　茶々
平熱という看護婦の瞳がきれい　光男
肉親の情を看護婦そつと見る　葉光
日赤にいた看護婦の非戦論　十三楼
看護婦にあとを任せて手を洗い　天信
スクーターに看護婦積んで横づける　同
生意気な看護婦或る日謀られる　一点子
看護婦の白衣を脱げばたゞの人　賢二
お体に障ると看護婦うまくにげ　章二
看護婦を女房にしようかと思い　薫
回診の時は看護婦すまして居　勢波
看護婦へ見舞を分けるうれしい日　藤波
カルテくる看護婦の手の美しく　葉乙女
看護婦は涼しいとこで試歩へ待ち　谷水
看護婦のサービス注射もんで去に　桂角
セーターになつて看護婦ホットする　同
看護婦が心の処方もしてくれて　呑水
看護婦の免状だいじに持つて嫁き　千容
看護婦の活けた桜が散るベット　季賛
看護婦の唖になつてる大手術　満佐志
インターンのうちは看護婦さんと呼び　方大
看護婦の若さを妻が不安がる　鉄児
看護婦の恋消毒の匂する　十九平
看護婦の孝行院長さんに診せ　芽花
看護婦の茶目に病気を忘れる日　文笑
看護婦を泣かし患者も淋しい日　同
看護婦の顔が重なる手術室　美秋
おちそうな帽子で看護婦通り過ぎ　敏子
休日の看護婦さんの赤い靴　鮎美
看護婦のマスクを取れば濃いルージュ　秋穂
代休の明日へ看護婦の髪のつや　雨季舟
看護婦の廊下を走る日の不吉　芳仙
看護婦に叱られてから好きになり　夜潮
小児科の看護婦さんは唄が好き　夢介
看護婦の糊をきかした身だしなみ　青丹子
美しい順に看護婦気が強く　大阪牛歩
看護婦が美人で町医よくはやり　寛峯
五・闘病へ看護婦だけが味方なり　満年
五・看護婦に折鶴の手をいとしまれ　百合子
五・ふくみ笑いして看護婦の愛される　和友
五・看護婦を慕いまま母らくをする　谷水
五・看護婦を泣かせたことを後で聞き　芳泉
人・落ちそうな帽子が婦長若く見せ　桂角
地・看護婦のきれいな嘘へ素直な子　谷水
天・看護婦に任せて置けぬ生みの親　同
軸・環境の整理も看護婦やつてくれ



川柳家の夢
若し百万円当つたら

このアンケートはジャーナリズムの立場から云えばニュースヴアリユー〇パーセントで気の抜けたビールの観がないでもないが世の中には愚問賢答と云う言葉もある。誰が賢答ぶりを発揮しているかを知るのも一つの楽しみには違いない。（編輯局）

8ミリ映寫で

中島生々庵

どうせ不労所得の百万円だ。狐から頂いた木の葉にも似て貰つた途端に地獄への道が開いているかも知れぬ。

中の島の日本銀行で一万枚の百円札を受取る。北浜から本町とゼニホシ族の街を通つて心斎橋の大丸へ着く、ほどよい三階位の窓から通行人めがけてフワリフワリと撒き散らす。そこに出来る渦巻と一番沢山つかむ人間の種類とを8ミリ映写に撮つて帰る。一風呂あびてきりゝみの晩酌。それでチヨン。

バラ〳〵っと

須崎豆秋

なにぶん百万円位なはした金では気の利いたことが出来ぬので困るんですが、先ず五十万円は川雑会館建設事業費の一部へ献金さしていたゞきあとの五十万円は飛行機に乗つて月の明るい夏の夜の広島市上空を旋廻しながらバラ〳〵っと撒いて夕涼み中の市民のみなさまへ、空からでもたまにはいゝものが落ちてくるなアと笑つて貰います。

二級酒を飲んで

種瓜平

ボロ家を焼き払つて新築し、まだ何人か子供をつくりたい。まてまてその先に若い女性達と派手に遊ぼう、つまらぬ漫画なんか描かずに二級酒を飲んで毎日尻から玉の出るほどバチンコもやりたい。寄附？記者諸君はすぐにそんな質問を出して折角の夢を傷つける。寄附は次ぎに百万円当つたときのことにする。

觀音堂の建立

水谷鮎美

御承知の通り私の住家は風水害がいちばん怖いのでそれに対策した和洋両式の小さいながらも楽しいわが家を建てたい。その敷地内には四季に通じたお花畠と名作の観世音菩薩の安置堂も建立したく思つております。このへんで百万円を超過せないのなら残金は一万円位づゝ浮んでくる人々や事々に善く使い果してしまいます。百万円を元手に儲けようとは思いません。

電鐵と興業株を

木村水堂

「若し百万円当つたらお前どうする」と訊ねたら「阿呆らしい、買いもせんのに当りますかいな」と細君に叱られた。

「けど今年は年廻りがえゝから今度の籤を買いなはれ」と何時もとは逆に罵められた。百万円当つたら優先的に一割を慈善事業に寄附をして、次ぎに家を建て直して、残り全部で電鉄と興業株を買う。

象牙の塔を

麻生葭乃

百万円当るの、当らぬのと云う事は離れ手で栗の根性で、一寸私の性に合いません。若し当つたとすれば現在恵まれていない日本の学者のどなたかに研究費として寄附したいのですが、本当に当ればキット全部寄附するつもりが二分の一になり、四分の一になるでしようから、一切人様のことは見ないことにして、私は山間の一室に私の象牙の塔をつくります。そして読書の静けさを破るものは八百屋の声位いで沢山。さてこの生活が百万円で何日つづけられるでしようか。

彼のマネがして見たい

東野大八

百万円が一人の老社員に当つた。その通知を受取つた彼はゼンゼン無表情で、勤続四十年かの自分の前の貧しい机をとり片づける。部長から取締役へとつぎつぎと立派な扉が開閉してついに大社長の部屋に達する。部屋に入つた彼はいんぎんに「貴方様が社長様で……」と訊く。「そうだ」と社長が尊大に答える。ともう一度念を押した彼はその社長の鼻先でゲンシュクかつ力一ぱいにペッカンコーをしてみせた。これは大むかし見た「百万円貰つたら」という映画の一コマである。川柳的かつ人間的痛烈なこの諷刺、私もこんな彼のマネがしてみたい。それだけです。

病氣を癒したい

福田山雨楼

最も信頼する結核療養所に入院して、最善の治療を受けたいと思います。小生には右肺に鶏卵大の空洞があるので、これに対しセメントのようなものを注射して閉塞して貰つたらと、この手術にあこがれております。尤も二、三年前或る病院の先生にこの話をしたら「そう云う方法もあるのだがうまくゆかないらしい」との事でした。とにかく百万円を注ぎ込んでも病気を癒したいと思います。

全國柳人の短册を

家沢莽花

今迄にも百万円当つた時の心配を度々しまして腹は充分出来てますのでやゝ現実に近いお答が出来そうです。

一、伴夫婦へ三十万円娘二人へ十万円宛やります。

一、先祖の供養やら世間への不義理のつぐないを幾分果したく十万円使います。

一、残り四十万円は天下晴れてのへそくりとして私の欲しい路郎先生始め川雑でお目にかゝる全国の皆様方先輩後進を問わずの短冊をお願い申し上げて相当な短冊持ちになり度いと思います。

しかしそうこうする内先にやつた子供達に慾が出来て又いろ〳〵とせびり取られる事でしようから虎の子も長くは持ちますまい。結局不朽洞会の終身会員にしてもらつておけば良かつたにと後悔する位が落ちでしよう。

小ぢんまりした家を

藤本満年

アメリカ旅行にしようかと思つたが、百万円ではアメションになりそうだから、やめにして、家を建てることにしました。家といつても、今日の相場では大邸宅も建たないので、少し広い地所で、家は小ぢんまりしたものにする。そして庭には四季の風情を添える樹木を植え、花壇も作つて見たい。しかし花鳥諷詠では俳句になるので、花と生活を句材として職務の余暇に、そゞろ詩情を湧かせたいものですね。さぞや柳友、くびすを接して訪れ来ることであろう。

愛妻と相談する事に

石曾根民郎

貯蓄して累々と利子を生ませることも面白かろう。それでは川柳作家の構想が貧しいといわれたらいま流行の外遊に出掛けて本物のシャンソンを聞きたい。外国語は何も喋れないから手真似ですることが出来るか試してみる最もよい機会になるわけだ。世界の諷刺詩は川柳だけかをつぶさに探査してくることが目的だ。帰朝したら「外遊紀行川柳句集」を出版して世に問い、予ねて懸案の川柳会館のデッカイヤッをこしらえ、一大社交場も兼ねて大いに川柳を論じたい。しかし実際に当つたら途端に目を廻してしまうからゆつくり安静にして愛妻と相談することになりそうだ。

舞台付の家を

丸尾潮花

若し百万円当つたら先ず四畳半に八畳それに十畳ぐらいの舞台付の家を故郷の母のそばに建て〳〵名取りをすることと歌舞伎座か宝塚の舞台で思い切り踊つて見たい。金に利を産ませて抱いて死のうなぞとは夢にも思つた事はない。それで残れば先生と静かな温泉に句でも拾えたらそれ以上の望みはさらになし。夢にしても嬉しい話。

川柳使節てな調子で

吉田水車

亡くなつた冷刀君の句に「一万円位なか〳〵儲からず」と云うのがある。貨幣価値のぼう落で今は百万円が単位であるらしい。さしづめ百万円当つたら税金攻勢に備えて、私は直に倍になるような方策を構じて置いて、そしてけちけちせずに費い果たす算段をする。しかし得してつまらぬ事に雲散霧消してしまうもの故、思い切つて飛行機と船を利用してアメリカへ行つて来る。文字通りそれはアメションかも知れないが、これからは日本もいよ〳〵国際的になるし、我々川柳家も見聞を広めて置かぬと「魔天楼」なんて課題が出たらホントに困るだろうし川雑も今後アメリカ各地に支部でも出来てあちらの感覚の句を見せられてもピンと来ないではお恥しい次第と相成るから、旁々川柳使節てな調子で行つて来るのも悪くない。とまア痴人の夢を。

日本中の柳友訪問

前田伍健

一、常に会いたい話したいと思う日本中の柳友を訪問して見たい。

二、永年苦労のみかけてる老妻を百貨店に伴れてゆき何んでも買つてやるからと驚かせて見たい（老妻の願いなど費用は知れたものと思う）。

三、雨のもる屋根と古畳を飛切り上等に替えたいこれであまりがあつたら匿名で柳誌へ寄附する。

温泉で川柳大会

清水白柳子

こう何もかも高くなつてしまつては二三枚続けて当らないと一枚だけでは中途半端ですな。家を建てると言つても防火建築にすれば百万円で足りないし、乗用車の一台も買えない。仕方がないから温泉で大川柳会でも開いて百万円迄ですます様に出席者全部を御招待と言うことにしたらどうでしよう。不景気だとか借金だとか考えない事にしましよう。話がみみつちくなりますから。

自動車で川柳行脚

黒川紫香

先づ自動車を一台買いますね。勿論アチヤラ製には手が届きませんが、トヨペットなら八十万円位で手に這入りますから、それで親しい柳友と東海道五十三次を手初めに全国川柳行脚としやれてみます。残り二十万円は燃料宿泊食事其他に当てます。日毎に変る方言に楽しみ乍ら全国の柳友と会ふ嬉しさは又格別でしよう。夢よ！是非一度。

半分はお隣りへ

北川春巣

若し百万円当つたら、私は先ずドキツとします！心臓麻痺は先ず起しますまい。「三十万鞄に持てばすられそう」これは私が十万円の退職金を貰つた時の句で、十万円では句にならぬと思つて、三十万にしたもので、百万円は此の十倍ですからね。ドキツとするのも当然でしよう。

お隣りの御主人は、「若し百万円当つたら、半分は北川さんに上げるから……」と奥さんに言訳しながら毎月くじを買つて居られるとの奥さんのお話ですから、私は此の際お隣りへ半分差上げようと思います。

若し同じように、私に半分下さる積りの方があれば、予め私に御連絡下さつておけば、先着順に、その残りの半分宛を差上げようと思います。こうして最後にいくら残るかは、今の所分りませんが、残つたぶんは川柳家をお招きしてビールの祝杯を上げましよう。

第三人生への轉換に

戸田古方

「誰か夢なき百万円の籤を買う」生々庵氏の御宅で浜寺支部の句会があつた時入選した句です。勝負運の弱い籤運の至つて弱い私はまだ本気になつて買つた事もなく、したがつて当つたこともありません。今日のことですから百万円位当つても気狂いにもならず遣い道にこまることもないだろうと思います。

預金は第二封鎖や財産税でこりこりしましたから百万円限度棄てるつもりで、リクリエーションのつもりでスペキレーションとまではいかなくとも商売でもしてやろうかとも、愚にもつかないことを考えてみたりします。第三の人生への転換になるかもしれません。

趣味と憩いの部屋を

浜田久米雄

秋春筆雑

調子の川柳

安川久留美

選者が句を披講する時、名調でないため句意が判らぬことがある。少くとも句は二回程よむべきと思う、又幾ら内容整つた句にしろ、その表現の拙ずさによつて耳にする調子がわるいと損である。

苦学生こゝが読売新聞社

初会署名前は荒木又右ェ門

という句になれば調子に於てよいから耳への響き——直ぐ句の意味が判る。句も眼に見て讀む句と、聞いて佳とする句があるから、ラジオなどの放送には後者の方が大衆に受けるわけだ。尤も歌に朗詠あり、俚謡に絃の調子あれば、川柳も又作るのみが主意でなく即ち披講の時名調の句は忘れぬ印象を残す。

水のない川に乞食が酔うている

飴細工狸の腹はでかいもの

などの句は必ずラジオ放送に一般の聴衆を笑わせることと思う。現代は映画に次で放送万能の時代である。名調子の句作を作つて川柳の普及することもよい。但し研究ということになれば又別である。

古蝶さんの句

朝眼がさめる、早、川柳のことを考えている。むくり起きて一句作ろうか、イヤそれよりも読まう。しかし枕頭にある本は見たもの許り、朝の第一便にどこかの川柳誌がとどかぬかそれを待つより仕方がない。それ迄二時間ある、やはり作句の鉛筆を取る、いゝ想も浮んで来ない、こんな時に私は過去の人々の句を思い出して見る。古蝶さんの「男髷泉鏡花がふり返る」、東都の旧い糸柳にのつていた句だ、鏡花の小説を耽読し江戸らしい手古舞の男髷に作者がふり返つたと想像したもので美しい句である——私は古蝶さんにあわなかつた。仕立屋さんで久良伎派の人、あくまで江戸ッ児調の句が多かつた、後に千鳥会の蔦雄君と共鳴し、二人で「すしの会」と称し、他人交ぜずに作句した時代がある。その作品は「菲翠」に掲載されたが、蔦雄の「太鼓持次の間のいる芸をもち」位がキオクに残つているばかりだ。

いわしの句

春ともなれば思い浮ぶ古句に「添乳して棚に鰯がござりやす」がある。いかにも長閑な家庭小図である。今ならば恐妻の方であろう？可愛いゝ子の添乳をはなして迄も夫の用に立たない言訳、「御飯なら棚にいわしがある」と教えた

まず川柳雑誌社へ三十万円を寄附したい。使い道は不朽洞会に一任する。それから三十万円程かけて「趣味と憩いの部屋」を造る。和洋折ちゆうで八畳の間ぐらいにしたい。装飾、調度類は他人様のを見ておいおいにきめたい。残りの三十万円は白い羽根、赤、緑、黄などの羽根を永久に買わなくてもよいことにする主章をもらう方面へ寄附することにする。もう十万円はみんなを招待して祝宴を張る。

養老院の設立

飯降白香

時勢の変転はもう一日一万円では私の慾望を満足させる金額でなく「もしも一億円あたつたら」であればと思いますが、しかしほんのポケットマネーにすぎないこの金額でも……少しは私の慾望を充す事が出来るかしら、まず「養老院の設立」

本当に老を楽しく明るく過しうるような、老いらくの恋が芽生えるような。生きてきた甲斐があつたとおもえるような。お金がたりるかしら。川雑の方が皆無料で入院して頂くようなのを……。

愚問に愚答

西尾栞

如何にも貧乏臭い問である。而も想が古い、僕なら差しづめ没にすると先ず毒舌を吐いといて、左様当れば「アヂャーとか私どうしましようとかエライことになりけり」とかの流行語を吐く程肚が出来ていないことはわかりきつている。先ず脳貧血でも起すのじやないかと心細いことを考える。当れば家内の口と四人の子供の口が相当煩さいでしようというて、半分は川柳会館設立寄附金に半分は慈善事業になんていう程衒気はないし病み上りの病人みたいに食べたいもの買いたいものを書き並べれば栞の肚が見られるし、——蓋し之は愚問に対する愚答になりました。

アメリカを見て來たい

戸倉普天

突然の御照会にいさゝか面喰いました。私の性格上こんな仮定の題目では真実な回答も出来兼ねますが御承知の通り息仁一郎が滞米中でしきりに私に渡米を促して来て居りますので若し百万円当つたら早速息子の滞在先へ飛んで行く。そして滞在費は息子に負担とせん、ゆる〳〵アメリカを見て来たいと考えております。老いたりと雖今尚此元気とスピーキングの自信を持つて居るのを幸と思つて居ります。呵々

三十円以上當らない

弘津柳慶

今頃百万円なんてアジャバーです。まずは気付薬と祝盃を兼ねて特級酒で乾杯。有象無象の寄附おことわり、但し川柳文化事業にはボイと寄附させて頂き、路郎師をお招きして祝賀川柳大会、残金を預金して利息で好きな晩酌を一級酒に格上して、あゝよき人世なるかなと陶然とさせて頂きます。全国の句会へもちよく〳〵と出席します。三十円以上当つた事のない小生に夢ではないが一度位百万円当つてもいゝと思います。

岡山縣川柳会館を

大森風來子

百万円当つたら、それを資本にして、岡山県川柳会館を建てゝ、川柳発展に寄与したい。場所は岡山駅からあまり遠くない静かな処を選ぶ。一階を川柳人連絡事務所兼応接室にし、二階を句会のための広間につくる。設計は川柳不朽洞会員で建築技師であるT氏に依頼する。句会のない時の二階の広間は、また川柳人の宿泊所にあてる……百万円があたらなくても実現して見たい私の希望でもある。

女房に渡す

正本水客

○中途半端だねえ（現実派）

○女房に渡しますよ（理想派）

○回答者全部の百万円を集めて川柳会館を造りましようよ。

（川柳家）

アメリカへ行く

八木摩天郎

マア……当つたらアメリカへ行

ところ、看がほかならぬ鰯である だけにのんびりとしている。下七五を口語とした作は多くあるが、この句は最も流暢で表現に妙味がある。

愛妻家

木村水堂

わるい女を持つたら一生の不作や。……などと職場で友人達がちよつぴり亭主関白ぶりをのぞかせている。けれど家庭ではそれ〴〵の奥方達は奥方達でその逆なことを考えて居られるかも知れない。現にうちの奥さんがそうである。「ウチほどカタのわいもんあらへん、一番スカつかんで」と僕の前で堂々と仰言る。これを万国通用語に訳すると、「妾ほど運のわるいものはない、一番甲斐性なしの夫を持つて」となる。

当時ふるほどという程ではないが、あちらからもこちらからも縁談があつたのを撰りに撰つて僕と結婚したのだから、奥さんがこうボヤクのも尤もなことゝ何時も僕は思うのである。最初このはなし（縁談）があつた時、僕の体では到底百姓仕事は出来ないことが判りきつていたので再三断つたのである。しかし仲人さんは、「貴郎は何も百姓せんでもよろしい。」と云つてくれるのでお委せしたような訳である。うちの奥さんの方へは「童貞で、真面目で、大人しくてそれに仕事は至つて好きな性分。」だと伝えたので、日頃信仰している神様にお伺いをたてゝもらつたところ、いくつかあつた口で僕が一番相性が合うとのお告げがあつたので、奥さんよりもおばあちやんの方が乗り気になつたのである。タンゴを担がせば稲の切りかぶに足をとられて肥をぶちまくし、鍬使いをさせたら半人前も出来ないので今ではそのおばあちやんが後悔している次第である。

僕は諸兄もご存じの如く、頭の方が少し空いている壜詰のような人間だが有難いことに、家の格で今まで二、三度仲人を頼まれたが僕の場合を思い比べてみんな親類へ転嫁した。将来も仲人はしない心算である。但し、仲人口を必要としない縁談はこの限りでない。僕は句会の度毎に、若菜嬢さんをもつて居られる香林さんを羨ましく思うのである。句会で少し遅くなると潮花さんは勿論、君子然として居られる水客さんまで「早く帰らんとまた奥さんに締め出しを喰うぜ。」とやんわり冷かされる。不朽洞の先輩諸賢や世間では、僕が恐妻家であると思つて居るらしい。これは甚だしい誤解である。僕の人格のために敢て一言したい。それは、僕が奥さんに一目おいているのは、奥さんが戸籍簿頭者だからではなく、僕の方が奥さんに心から惚れているからである。

一万株買うて

大坂形水

百万円ポンと証拠金に入れて平和不動、一万株買いました。俄然情勢変化グン〳〵上昇！勿論ストップ高で引けました。翌日もその又翌日も暴騰続き、全く夢のような儲けぶりです。今、仕切つたら五百万円程になつていますが、と北浜からの電話――では、その辺で一応手仕舞つといて、――次の手は、買か売か将又、五百万円也の小切手貰つて一休みとするか、兎に角、百万円当つたら此んな調子で、先ず千万円位に増やしてから得と費い途を考えることに致します。

子供の学資に

市場沒食子

若し百万円が棚ボタ式に握れたとしても長年勤めて来た勤めは止めません。それを資本に開業でもしたらと縁者友人はすゝめるのは必定だが、今更そんな気になれず、第一中途半端な百万円でゝもある。例え貧乏しても妻はサラリーマンが好きだし、商売が大嫌いだから。それなら何に使うかと言われると、先ず家の内部修繕、模様替えに五十万円を使う。残りは電車株でも買つて郊外電車を無料にしたい。妻は混血児の育成所かバン〳〵救済に使いたいと云うが、さて握つて見ればどうだか判らない。本当に握れば子供の学資に貯金をするのがおちだろう。まあ握れることはないから安心だが。

十日間で閉店

國弘半休門

吾れもし給仕なりせば、社長室の窓ガラスをぶち壊して社長の怒りを制するに百万円をもつてするだがね。之れでは映画の筋を地で行くことになつてパッとしない。ところで百万円持つてパチンコ屋を始める。機械百台買つて十割サービス一日に五万円の景品を出すことにして十日間で閉店。取らぬ狸の皮算用とは儲かる話と思いしに、当今の夢は当つても得にならない。「百万円余り魅力のない数字」。

その儘進呈

川村好郎

先日、梅里の店「大万」で路郎先生にお目に掛つた時先生も大分いゝ機嫌だつたが何かの話のついでに、「川村君百万円当る宝くじの番号を教えてんか、僕はその番号を買つてアメリカへ行くのや」と笑いながら仰言つた。冗談だとは思うが満更嘘ばかりでもないらしい。私はその時そうだ百万円当つたらその儘ポンと先生にあげよう。「先生どうかアメリカ行の小遣いに使つて下さい」と差上げたその時のえゝ気持。うれしそうな先生の顔。これが味いたいのだ。だが本当に当つたら……「百万円ともかく一杯やりに出る」と云う危険性も多分にある。

沈思默考して

村松夢裡

当分沈黙を守ります。そして除ろに計画を樹てます。どうも貧乏人は折角の天の恩恵も空しく元も子も無くしてしまう虞れあり、殊に現在苦労しておる負債や義理を一気に解決しようと有頂天になる愚があり、これも沈思黙考、有意義な処理をすゝめたい。

（原稿到着順）

大阪名菓
もなか民かまご
源氏の最中
百貨店著名菓子店にあります
大阪市阿倍野区晴明通二ノ一九
民かまど本舗
電話㊱三四〇九

いのちある句を創れ

花地物語

投稿規定

▼用紙は原稿用紙▼文字は正確▼開催月日及場所記入▼締切毎月二〇日▼投稿先本社宛

本社六月句会（大阪市）

六月六日　午後六時
於　光明寺

梅雨時ではあるが、なか〳〵の盛会だつた。開会前の受附へ列を造つた出席者は名簿記入の間もどかしく、いそ〳〵と着席した。路郎師の柳話は人生の裏の裏という内容を語られ、鮎美氏の句評は玲人・大介・禿山・薫翠・文郷の諸氏の句を掲示して批評を試みられた。続いて席題・兼題の披講終了。当夜の不朽洞賞優勝カップは丸尾潮花氏が把握した。閉会九時。（幹事）

出席者＝路郎・賀峯・潮花・少将・水堂・悦子・圭水・一点子・帆加夫・黙平・淡舟・静馬・朴堂・以兆・ゆづる・しげお・圭三・清・凡九郎・光二・笛生・一飄・ひろし・一十・六竜子・夢裡・丁路・春巣・秋窓・摩天郎・豆秋・都詩子・春斉・塗杖・白溪子・酔華・楽天・博也・貴山・鴉花・生々庵・水客・破天荒・香林・恒明・紫香・清子・嘉一・一三夫・三司・没食子・鮎美・いわを・勝己・雅巣・へとち・梨里・葭乃

兼題「私用」　麻生路郎選

三等重役私用の電話ぼそ〳〵と　正司
寄つたこと会社（言わんとおいてや）　豆秋
煙草だけ持つて私用の席を立ち　紫香
小使に聞けば私用が多すぎる　酔歩
そろばんが合はず私用はそれっきり　鮎美
重役の私用を午餉の話題にし　香林
印刷屋私用の分は負けてくれ　賀峯
受付のとこで私用が待たされる　しげを
こゝからは私用下車した妻の里　酔歩
はゝん私用かと外出の顔を読む　破天荒
私用にて訪へば女中にあしらわれ　満佐志
さん付けで呼ばれ私用と給仕知り　白溪子
盲判私用の方へ椅子を向け　水客
私用やと言ふに税務署飲まされる　潮花
オフイスへ私用とわかる派手な人　清
はつきりと私用浴衣でやって来た　貴山
女秘書私用の供もさせられる　塗杖
製材所私用の声を聞き分ける　水客
小走りに新米なりの私用する　帆加夫
抜き差しならぬせわしさに居て私用もし　一十
戦後派の私用課長の目にあまり　正司
顔色を見ゐ〳〵話し出す私用　恒明
信用があつて私用を言ひつかり　水堂
代書屋が私用の墨をすり直し　悦子
技官今日課長のラヂオ直さされ　七面山
私用には使はぬ課長けむたがり　賀峯
公用は眠り私用はかけ廻り　潮花
何が釣れまんネとビクを覗きこみ　豆秋
釣り掘の恋はラムネの栓を抜き　三司
魚釣りの腕を女房笑つとき　淡舟
世を捨てた二人夜釣に助けられ　悦子
釣針を替えて日暮れへあきらめず　白溪子
釣竿の向ふは春の雲が浮き　三司
場所変えて〳〵魚釣釣れぬまゝ　恒明
釣つてゐる横へ子供も来しやがみ　潮花
釣れましたかへ黙つて鯛を見せ　香林
大物を釣つて帰つて疑はれ　淡舟
釣竿の余生に若い連が出来　没食子

兼題「魚釣り」　市場没食子選

世の中の慾を忘れた顔で釣り　水堂
父の形見を魚釣のズボンにし　水客
手答えと別に小さな魚が釣れ　少将
釣自慢魚の寸をまた伸ばし　同
舟酔いを降して釣場変えて釣り　白溪子
餌みんな投げて釣れない竿を上げ　貴山
釣上げたとこをカメラに納められ　七面山
魚釣に一番電車苦にならず　一十
元将軍悠々自適魚を釣る　豆秋
釣れぬので子供にひやかされている　いわを
魚釣の一尺は陸で待つと言ふ　正司
鯛釣に鞆へはる〳〵社用族　笛生
毎日を魚釣りにゐる斗病記　春斉
続けさま釣つた隣へ気があせり　紫香
山の池ポツンと釣つてゐるもとし　都詩子
釣師今日坊主むつつとして帰り　潮花
もう濡れた頃に破れた傘が借れ　黙平
衝突で骨が折れたは傘のこと　しげを
ありあわせ持つてパパさん迎へ傘　清子
駅前で一番安い傘を買ひ　豆秋
まだ酔つてない梯子酒傘を持ち　春巣
京の雨おんなじ宿の傘と会ひ　恒明
まだ恋を知らない傘の歩きよう　同
貸傘の屋号が派手な俄か雨　朴堂
飲んで来て帰れば妻の傘が待ち　摩天郎
コーモリの中で蛇の目は高うあじ　圭三
雨ポツリ傘いそ〳〵と駅へゆく　都詩子
傘干せばトンボがすぐにとまりに来　鮎美
雨靴を履いて傘だけ置き忘れ　破天荒
傘させば青葉の橋が眼に泌みる　鮎美
特価品売場へ傘を忘れて来　春巣
雨止んでどこかで傘を忘れて来　没食子
相合傘になる橋筋都合よし　酔歩
礼言ふて傘を返した店で飲み　春斉
破れ傘事故の現場に忘れられ　圭水
傘さしてうつす写真の賑かさ　三司
信心の傘へ青葉の滴する　水客
返さない心算で借りた破れ傘　淡舟
傘借りたまゝに女と縁が切れ　水客
よい方の傘をやつぱり出して貸し　三司
急変を見舞ふ傘立て横にこけ　紫香

席題「ミルク」　須崎豆秋選

ミルク色とは愛慾の夜の描写　一点子
ミルク風呂明日は美人になるつもり　黙平
女一人猫のミルクを温める　少将
ミルクでもこんなに育つ優良児　三司
病妻に聞いてミルクのとき加減　一十
許しますミルク育ちがするこんた　一飄
子も親もお乳がほしい粉ミルク　笛生
ボン〳〵と呼ばれミルクで育てられ　しげを
けち〳〵と使ひミルクを腐らせる　一十
子のミルクまず母親がおいしそう　酔華
ダンサーは今日のチップでミルク買ふ　正司
苺皿母はミルクが要らぬ人　黙平
イ、顔イ、顔鼻にミルクが附いてゐる　淡舟
捨犬がミルクとやらで育てられ　潮花
子のミルク一家みんなで飲んでゐる　賀峯
配給のミルクで泣いた子も七つ　都詩子
罪の子がニツコリ笑ふ粉ミルク　紫香
粉ミルク別れた妻の匂ひする　水客
サービスにちよつぴりミルク入れてくれ　豆秋

席題「公園」　友淵貴山選

公園で女はひやし飴をのみ　笛生
公園で一服つけたモク拾ひ　しげを
じれつたい人公園を歩くだけ　正司
公園に都会の悪の香が残り　生々庵
公園の空の碧さにとけきれず　鮎美
公園で未来を語り合ふ若さ　博也
もつともな話公園通りぬけ　夢裡
公園の芝生で拾ろた五円玉　潮花
矢印の方へ公園歩いて見　水客
公園で話がついた恋のこと　ひろし
日本が公園ですと異人の眼　帆加夫

小児科
内科
性病科
安岡醫院
安岡三四郎
道頓堀・日本橋南詰
東へ半丁浜側
電話南㊱三二四六

公園のベンチに古い記憶あり　へとち　一瓢
夏みかんの皮公園の陽にいどむ　塗杖
公園の隅に情熱ほとばしり　一瓢
バン〳〵の居る公園を小さく抜け　秋窓
公園で孤独は子等の写生を見　少将
公園の昼を野球の袖カバー　恒明
公園の静かなとこはブトが居た　没食子
公園のベンチ切ない声も聞き　淡舟
公園に出て看護婦さん深呼吸　ゆずる
小公園五年たつてもまだ出来ず　鮎美
公園のトンボ公園とは知らず　春巣
公園へ来て眼帯をはづして見　潮花
公園の闇添へそふもないふたり　清夢
公園で昼でも晩でもない食事　裡いさを
ルンペンの内気公園の椅子を避け　六竜子
公園で逢おとは余程しみつたれ　貴山
成功は未だし公園の草に臥す　
心中行国立公園山深し　

席題「既製品」　新川博也選

既製品身にぴったりと買わされる　勝己
鏡に背向けて既製の服は売れ　貴山
パーテーに楽しく話す既製服　清子
既製品三面鏡が選つてくれ　貴山
明日は晴れ子に既製服買ふ暮し　都詩子
こゝをこう直して貰ふ既製服　少将
賞められて白状してる既製品　へとち
既製品売り子がほめる肩の巾　生々庵
既製品しかし月賦と違ひます　貴山
袖口を折り曲げている既製品　豆秋
宣伝が嘘でなかつた既製品　恒明
既製服あわてて買うたお葬式　清
少々の無理はみとけと既製品　笛生
サービスにネーム入れさす既製品　生々庵
出来合いがなく跳へた紋所　少将
既製品仲間が出来た事務机　朴堂
既製品みたいな妻とむつまじく　豆秋
既製品原価を言ふてまけてくれ　しげを
既製品づくめで新郎新婦出来　春巣
親の恩今更知つた既製品　いさを
既製品まにあひかねる子に育ち　圭水

この夏もレディメードですこす妻　正司
既製品いゝあんばいの肩の巾　笛生
既製品無理に押し込む布袋腹　生々庵
既製品十文の靴へ綿をつめ　潮花
既製品に凡そ縁なき肥軀となり　没食子
既製品合ふて無力の型にされ　貴山
既製品ピタリ着込んで逢いに行き　淡舟
ねぎるだけねぎつて見たい既製品　春斉
既製品うるさい視線感じてゐ　水客
投げ売りのズボンを臍の下でしめ　豆秋
着くずれを妻が見つけた既製品　朴堂
既製品しゆうとの趣味に逆らはず　水客
既製品ぴり〳〵ぴりと破れて来　鮎美

雑川　**阿倍野支部句会**（大阪）

五月十六日　於　近映地下直営食堂
須崎豆秋報

出しぬけでよし採用の通知来る　少将
出しぬけの奇声毛虫が降りて来た　抄児
出しぬけに君五万円貸してんか　豆秋
気まぐれに今度は小唄を習ひ出し　梅里
気まぐれの西へ西へと歩いて見　恒明
共犯の女不敵な笑いよう　みのる
共犯の一人今頃温泉に浸たり　一瓢
共犯という女の写真美しい　亜鈍
産制の失敗あなたも共犯よ　正斗
弟が見張りをしてる柿ちぎり　愁介
鉄橋もだん〳〵故郷へ近い音　玲八
橋にもたれてつく〴〵僕の甲斐性なさ　博也
たわむれと知らず仲裁あわてもの　虹夢
仲裁の若い巡査が見直され　楽天
仲裁へ女は聞いてくれと泣き　日本村
仲裁が這入つて女強くなり　水堂
頼りない仲裁ちびた下駄でくる　白渓子
仲裁に馴れて潮時考える　万楽
エチケットコゲ茶の服がぴったり来　梅志
エチケット酔が廻ると忘れて来　賀峰
ビフテキが喉につまつたエチケット　好郎
美人なら立たう車中のエチケット　野介

二代目は朝寝朝酒身をくづし　方眠
酔ひ醒めの水もミナミも朝の色　帆加夫
嫁姑茶の間の朝の茶がうまし　三司
朝喧嘩夫婦一日黙否権　雨水
朝の駅御苦労さんで吐き出され　夢生
買ひ上手朝あきないを負けさせる　一夜
愛想よし朝の女のイヤリング　鮎美

雑川　**淀川支部句会**（大阪市）

五月九日　於　香林居
武部香林報

人形の包は母にさげさせず　山茶花
人形は四季の移りを着て知らせ　礼三
人形の円い心を児に抱かせ　香林
人形に生涯托す文五郎　水堂
ビールなら飲むとも言へず飲みそこね　水茶
何思つた二号一人でビヤホール　花村
療養の時間へやせた脊を向け　若菜
りんじ放送仕事場の音はたと止み　山茶花
放送の効果クイズで験される　礼三

雑川　**日立櫻島支部句会**（大阪市）

五月七日　於　日立造船所
丸尾潮花報

役得はとても豪華なとこで飲み　秋花
役得はふつと世間があまく見え　望峰
ちと過ぎた役得新聞記事になり　有泉
役得は二号と言ふを囲つとき　清潮
役得を我が子に意見される親　淡山
まだ若いなどと役得愚痴を聞き　巨船
雨傘で得た初恋とは言わず　平三郎
初恋のひと代議士をまたすべり　牧湖
初恋のひとを信じた日のレター　定美
初恋で添へた不運がつきまとひ　一瓢
制服の胸やわらかくひとを恋ひ　潮花
黄昏の色へ新婚戻つて来　美津
夕焼のなかへ故郷からたより　幸子
夕焼へ蛙ぽつんと忘れられ　千代美
夕焼をまともにうけたビヤホール　花美
黄昏の風へおむつが干されたり　ひさみ
夕焼へ向けば堤の月見草　花子
夕焼へ女工の声がつづくなり　花奈女

夕焼へ地球儀クルリ〳〵廻ひ　万亀子

雑川　**岡山支部句会**（岡山市）

（岡鉄クラブ文芸部春季川柳大会）
五月十七日　於　山陽旅館
大森風来子報

特急に別に急がぬ顔も見え　耕介
アベックのように特急坐らされ　風来子
特急で来て妾宅で二三日　鶴子
特急が駅の桜の花を捲き　三四詩
特急へ一段すごいスリが乗り　句酔
特急の車窓ゆつくり歩いて来　東岸子
特急の鞄へ陳情書がつまり　一心
スクリーンをよそに囁き合う二人　ただみ
巣心地を囁き合つて初燕　恵二朗
囁きへ女将は承知した笑顔　鉄児
囁きの中へ花嫁降ろされる　宇柳
囁いて行くのかパラソル軽く舞い　ペン郎
答弁の間違い秘書に囁かれ　秋芳
駅長が変つたらしい植木鉢　方大
駅長は家出をさとすことになれ　三林坊
終戦の頃を駅長又話し　八ッ茶
帰郷談駅長室でまづ語り　忠師
出戻りを娘少しも恥らわず　笑児

診察を恥ぢる乳房にある丸み　青柳
恥らいも知らぬ女に何時かなり　彌栄
惚れている弱味男の恥を捨て　大介
退屈といえば家計簿持つて来る　棗蛙
失恋をして退屈な日が続き　七面山
退屈の午後へぼたんが崩れたり　久米雄
退屈な欠伸社長の眼に出合い　三葉
退屈へ退屈したのが話しに来　古心
退屈な男日向で爪を切り　今日坊
雨三日続いて話の種がつき　千代春
退屈なマダム電話帳を繰る　正一
退屈を夜店へ誘う灯が入り　柳穂
退屈を尻目に草は伸びて行き　秀男
退屈へ彼女の似顔書いており　一笑
母の日へ母は退屈持てあまし　たか代
雨の日は天まで届く大欠伸　風の子
退屈をさせて舞台に家が建ち　仰天
消防の詰所退屈させて無事　大甲帽
倖せの身に退屈がつきまとい　藤波
定期券老嬢去年のまゝの年　忠美
型の如定期見せるくぼ見せ　鉄人
カッギ屋の名が出鱈目な定期券　雷山
ムツトした定期は鼻の先へ出し　笑気坊
お勤めがホールに変る定期券　風流
嫁ぐ日も近く定期も切れかゝり　鉄児
骨折れた傘でしの突く雨を押し　娯句楽
先輩の忠告骨のずいに浸み　玉璋
愛人の遺骨を拾う不仕合せ　花蜂
小骨まで拾う主人で猫がやせ　美能留
洋傘を廻して骨の数で買い　温堂
幼稚園からもう戦後派の娘さわかり　青果
雨の日は母の日となる幼稚園　吟平
母親が入園するのか幼稚園　さいじ
先生の両手が足らぬ幼稚園　秀子

川雑　**弓創支部句会**（岡山県）
五月九日　於　金光教会所
福嶋鉄児報

落選と知らずに鯛を届けて来　柳童
落選で保守陣営の屋台ゆれ　風樹
落選は気の毒な程焼けて居り　禿山
落選の順序お金のない順序　牛歩
あれ程に頭を下げて落選し　白頭
父様の落選縁談まで中止　令甫
落選へ借りのあるのが見舞に来　巷雨
痛いとこ彌次につかれてふさ詰り　風樹
それからと内密らしい声になり　水甫
処女でない弱身夫へさからへず　奇童
借金の弱身へ貞操迫られる　一貫
服装を見てサービスの度が違ひ　一生
つねられるのもサービスの内に入り　鉄児
此の辺は皆んな左派です裏長屋　牛歩
裏長屋ラヂオの声が大き過ぎ　不老
裏長屋都市計画の邪魔になり　笑泉
軒並みに亭主の弱い裏長屋　巷雨
裏長屋膏替えも飯も一つ部屋　柳童
安住の土地と分つた裏長屋　笑泉
干し傘が邪魔になつてる裏長屋　鉄児

川雑　**備前支部句会**（岡山県）
四月十九日　於　大森娯句楽居
浜田久米雄報

幼稚園思いおもいの足を出し　柳穂
炭坑節出て来てするめ足ばかり　甘井子
夜桜に句碑もかすんでおぼろ月　半仙
もう酔ふたしなでするめを噛んで見せ　歌浪児
六十ですするめ位は噛めますよ　運平
人妻になつてモデルを冷たく見　苑女
するめ迄もつて悪友やつて来る　正洲
夜桜へ月があんまり明る過ぎ　東岸子
青だたみ足にしびれの型がつき　娯句楽
まん中は延びてちじんで来るするめ　久米雄

川雑布哇支部　**ウイロー社句会**（ハワイ）
於　柳云亭
古川魔花麗報

今更に帰化でもないと孫の守　峰雪
帰化しても色もサラリーも全じこと　草一郎
一生の一分残りを帰化と決め　自然生
帰化権も猫に小判と云ふ齢さ　泉水
御先祖にすまぬ気もする帰化願　快夢起
育て親陵が移つて帰化と決め　旋風
楽園のゆとり眠たく帰化をする　笑有
帰化の夢招く桜へ脚踏みし　晩翠
十字碑へ親の供養は帰化一つ　野渉
道せまし今日から我はアリメカン　彩朋
誰も皆自尊心あり帰化講座　拝山
子の国に俺も入籍するつもり　柳葉
帰化をしてこゝを墳墓ときめました　紀南児
顔だけが帰化の許さぬものがり　同
一昔前に帰化権ほしかつた　迷朗
大統領にだけは成れぬかさ帰化市民　魔花麗
日米の親善帰化で拍車かけ　煙波

雑川　**出雲支部句会**（出雲市）
五月四日　於　野村岬月居
尼緑之助報

すげ笠は若葉を縫ふて出雲札　独仙
掌の運を諦め兼ねて尚　朱扇
スランプへ向いはバチンコ屋を始め　まさる
運のない奴よと才を惜しまれる　壮
新緑の並木静かに乳母車　代仕男
背をのせば若葉と鯉の吹き流し　岬月
又母が持ち出す無事で居る手紙　緑之助

雑川　**堺支部句会**（堺市）
四月二十九日　於　摩天郎居
八木摩天郎報

床の間を我物顔の武者人形　英二
軍国にまたなりそうな武者飾　摩天郎
玄関は深閑として武者人形　英二
武者人形飾れば祖母も来て眺め　梅志
再軍備武者人形も復古調　雄声
武者人形芝生の風がうごいて来　水客
本金やそうな本家の武者人形　古方
先にかへろうか女房の立話　凡九郎
エプロンの下は言えない立ち話　貴山
立話おとふ屋さんの邪魔になり　水客
立話噂の主が来て別れ　生々庵
アドバルーン一つこの町春になり　貴山
暑い日や真直に立つアドバルーン　英二
売出しの街斜めにアドバルーン　貴山
アドバルーンもつそうとして駅を出る　呆人
寝煙草に朝晴れ渡るアドバルーン　生々庵
アドバルーンやんわり風をうけておき　梅志
大阪の空をはみ出たアドバルーン　たかし
太陽の光りに愛を信じ切る　葉光
小さき顧ひ光る十字架抱きしめる　羅生
千年を光り貧者の名をとどめ　鹿の子
夜光虫海の吐息に逆らわず　水客
もう三分足らぬ度胸が負かされる　湧泉
天野屋の度胸堺の出る話　摩天郎

阪田謄写版

大阪市北区芝田町五二

株式会社　**阪田商会**

電話　福島五九九六
番一三一～四番

度胸試しするように犬が吠え　雄声
税務署へ度胸をきめた顔でくる　たかし
戦塵の度胸白衣で物を乞ふ　三平
アメリカへ行く気度胸がルーチュ引く　鹿の子
温室で育つた度胸ほめて置く　水客
しんねこがすうと通つた離れの間　凡九郎
手あぶりがぽつねんとある離れ　古方
はなれの小話かくも耳に近く　綱一
疎開かるるだるにくいる離座敷　摩天郎
隔離された様に離れの新夫婦　生々庵
印税で綺麗に暮してるはなれ　鹿の子
離れには行くでないと言つておき　伯州
政客と云われ離房に落ちつけず　路郎

雑川　**貴生川支部句会**（滋賀県）
四月十一日　於　夢生居
黄瀬美秋報

ライバルであつた級友なつかく　木人
箔つけに行くのか社長洋行し　凡骨
注射薬持つて出張する社長　輝子
セーターもぬいでしもうた割木割　美秋
くたびれたセーター恋もした昔　斗志
妻の服子のセーターになつてゐる　夢生
愛の告白どもり〳〵言ひ　和彦
ゼゼ税務署と番頭どもり伝へに来　溪柳
集金がすめば如才のない話　四苦峯
粗品でも記念となれば箱に入れ　凡骨
ビンボケの記念の写真父と母　和彦
結婚記念日三年目には外で飲み

雑川　**京都支部句会**（京都市）
五月十六日　於　仲源寺
村松夢裡報

足跡があつて林の道を撰り　良太郎
あじさいの青さを頬にしてしやがみ　紫蘭

頬つぺたをふくらませ小さき子の反抗　絵丘
生きてゆく女工に頬の丸さある　あきら
一挙一投足宮司かしこみかしこまり　夢裡
源の朝臣祭の日の宮司　烏雀
横つ丁で逢へば宮司も腰ひくう　誠史
お祭りが来て宮司として認められ　絵丘
常の日は宮司お札を刷つてゐる　烏雀
うがいする宮司宮様着く時間　五寿
お祭りの朝を宮司として起きる　あきら
森閑としてる宮司の動く風　千潮
緊張のゆるみ宮司は咳を入れ　夢裡
玉砂利へ宮司一足づゝの音　紫鬣
お祝のするめ徴てから焼かれ　蘇海
コップ酒そうだするめがあつた筈　喜由
妻の焼くするめそばから裂いて　紅寿

雑川　**大聖寺支部句会**（石川県）
五月十四日　於　福田卓風居
野村味平報

金策の心重たく遠廻り　傍石
用達に出て実家まで遠廻り　和子
街角にいやなのが居り遠廻り　卓風
近道は橋の負請で遠廻り　桃園
遠廻りと知らず駅から荷を脅す　味平
日曜の行き先告げず廿才前　魯木
セイラ服もう着たがらぬ乳の線　光郎
出世作妻の犠牲の質通い　同
借金はありませんよと嫁買ひ　とよ
貸しては貰へぬ金にみれんがり　味平
やけくそもまじり借金苦にならず　酔羊
借金のかさにふしんがり　味平
建て増しの予算がすれて金を借り　桃園
借金取り来ればなるほど覚へあり　卓風
アベックの帯だけ違う貸浴衣　魯木

雑川　**浜寺病院支部句会**（大阪府）
膳所新三報

夜桜へ甘酒売りの声長閑　大観
夜桜へ揉み苦茶にされた老夫婦　蕪青
逝く青春の如く今宵の花吹雪　勢園
夜桜を賞めて小枝を一つ折り　朝風
夜桜へ一人で来れば落着けず　谷水
夜桜は言ひわけだけの左党　根生
夜桜に父さん二級酒買つて行き　十郎兵衛
妻の背に子が重くなる夜の桜　慢多郎
ちと早い夜桜薄着寒くなり　夢郷
夜桜を見るは目当でない二人　三四郎
夜桜に芸が身を喰ふギター弾き　鶴

肩車させて夜桜くぐりぬけ　丸盆
待された夜桜肩にヒラ〳〵と　高峰
夜桜もプランに入れて宿を取り　真鬣居
夜桜の二次会ネオンの下になり　雅人
夜桜に浮気をそゝる観世音　橘村
夜桜の三色団子母に買ひ　小雀
夜桜は一本丈けで人の山　白蛾
日曜日又年寄があつてにされ　風鈴
年寄りもみだしなりですと髪を染め　小豆
義歯とれば急に年寄りじみた顔　新三
共白髪お茶ひとゝきもむつまじい　慢太郎
年寄りの言ふ迷信へ逆らはず　文糖
街録は先づ年寄りにマイク向け　桂月
義理の子の孝養年寄り身に泌みる　楓士
年寄りはじゃまにもされ世間にも合ひ　橘村
老らくの恋に破れて孫の守り　吟津
断りは年寄に任す若夫婦　慢太郎
隠居して店が気になる眼鏡越し　貞春
金婚に孫の祝つた杖をつき　多良子
年寄りは用もないのに早く起き　風順
年寄りの願ひは一度善光寺　真鬣居
七転び八転びのまゝ年が寄り　真砂
ジョッキ干す父に若さが残り　天
暦へ何が目出度い中風なり　桜

川雑池田支部
川雑梅田支部
川雑大鉄局支部　**合同句会**（大阪市）
五月十一日　於　阪神ビル四階会議室
水谷鮎美報

若いからその辛抱を聞きながし　しげお
辛抱はよいもの母の膝まくら　鮎美
失業は何んでも辛抱して見る気　春夢草
辛抱と紙一重ですり減りつき　一路
どこまでもつゞく青葉へ肩を組み　水客
ハーモニカ青葉の椽の男の子　鮎美
犬の仔が産れ青葉に風があり　紫香
川風を受け食堂の影動く　一路
食堂で早速開く買つた帯　豊
ひつそりと金魚は冬を生き残り　夢生
抱いた子が手を近づける金魚鉢　三花堂
満員の食堂やつぱり待つ気なし　正斗
やがて死ぬ金魚ときめて買わなかり　六竜子
商魂を秘して気まぐれ旅に出る　古方
気まぐれのプランでいゝ一人旅　都詩子
モード服叩き売られた質流れ　白溪子
葱坊主雑草生へたまゝ太り　一夜
葱坊主しばらく蝶を休ませる　帆加夫
人間は一度は死ぬよ葱坊主　

気まぐれなキツス明日は別れる気　圭三
ライスカレーですかと食堂剛楽なり　二柱
葱坊主々々俺にも少々意地がある　杜的
飛行機に乗つて金魚の弗かせぎ　嵐楼
みなさんの食堂煙突見える窓　三司
食堂でやつと二人の顔になり　一瓢
気まぐれな人や私によい夫　凡九郎
詩があるよ葱坊主を見倦かない　古方

川柳友の会（大阪市）
四月廿四日　於　帝国化工大阪工場
左野牛歩報

僕の名がさられてゐる伝言板　牛歩
伝言板ルーズな時間責めて居り　雅楽太
伝言板書いてる背中叩かれる　登志清
駅頭の伝言板にも四季があり　一平
伝言板消すにはをしい女文字　豚平
伝言板大勢囲む空漠漠　島浦
暗号で意志の通じる伝言板　辰冶
転落ちの片方伝言板に載り　翠風
待ちぼうけ伝言板へ八ッ当り　葉乙女

南区医師会　**杏林川柳会**
四月廿一日　於　中島生々庵居
南捨舟報

口説く気を夢にかこつて打診する　一伸
落目には夢判断も気に掛り　比呂史
正夢にしたり逆にして見たり　珊杖郎
夢にまでうなされますと滞納者　鳥耕
夢中でしたなぞと一向照れもせず　捨舟
特価品妻の眼の色変りたり　迷路
正札へちらり〳〵と女房の眼　弾正
妻の眼の一失賢妻の目が狂ひ　捨舟
千慮の眼も老眼かけて恐がらず　鳥耕
妻の眼にかどの立ちぬ電話が来　比呂史
呼び鈴を押し〳〵妻の眼を案じ　生々庵
妻の眼を脊中にうけて靴をはき　弾正
妻の眼が肥えて亭主はあとを出し　太希志
妻の眼がこわくて今日の地位につき　同
妻の眼にこぼれた子供二人あり　阿茶
妻の眼には今宵行くなと言つてゐる　珊杖郎
お花見にせめて割り勘忘れたく　生々庵
バスガール花見の客をもてあまし　一伸
花見酒臨時仲居の手の厚さ　弾正
満開であつたかうか酔ふてゝね　比呂史
お念仏唱えて寺の花見客　珊杖郎
見納めの花だと老母手を引かれ　瑞川
子のための花見手製のすしを提げ　路郎

南海電鐵川柳会（大阪市）
四月廿七日　於　親和寮
友淵貴山報

だしぬけに腕をくまれる夜の街　圭水
だしぬけのハイヤ話の腰を折り　梅志
責任観念の死目に合ひ損ね　圭水
責任のない肩書を二つ三つ　梅志
責任は誰が持つのか宙に浮き　雄声
惜しまれて引責辞職するもよし　貴山
責任を春の陽ざしも楽しまず　摩天郎
失恋へ高い月謝を払わされ　凡九郎
父に出す手紙のすみに授業料　一号
授業料だけなと母は内職し　伯州
授業料姉の涙を知り初め　水客
声優を写真で見ればだまし　摩天郎
声優の開かせたい母今は亡し　雄声
声優の写サラリーマンに似て　梅志
声優としてテレビへ顔を塗り　水客
台本を声優恥とせずに読み　貴山
声優のその他大勢はガヤ〳〵〳〵　貴山
民放へ声優種がきれかゝり　凡九郎

みをつくし川柳会（大阪市）
五月十二日　於　天王寺中学校
戸田古方報

廻り道してもやつぱり茨なり　凡九郎
廻り道せねばよかつた雨に会ひ　のぼる
廻り道したが何時しか山を越え　義広
廻り道犬がこわいと友のいふ　のぼる
地蔵さんへお願ひがある廻り道　古方
啄木が見た掌もこんな掌だろうか　凡九郎
泥水もネオンうつせば唄になり　正斗
見合のロお国訛りもなつかしく　圭水

東京そばと
灘一とすじ
アベノ橋地下映画食道街
梅里の店
大萬
★大万川柳（第廿九回）を募る
兼題「毒味」路郎先生選
締切・七月十五日　句数五句以内
発表・七月廿一日（店内に掲示）
御投句は大万宛・どなたでも

BK放送川柳

「浴衣」　麻生路郎選

佳作

大阪市　藪内千代子
貸浴衣ポートを借りて疑はれ

神戸市　能勢　思朝
浴衣着て百円札の入れどころ

兵庫県　前田　柳蛙
同じ宿浴衣でそれと分るなり

神戸市　岩田　一夜
バイヤーの胸毛が出ている貸浴衣

愛知県　柴田　無方
浴衣着た署長の甘さ見て戻り

兵庫県　家沢　薺花
浴衣まで出してもらつて恐縮し

大阪市　岡　宗絹
急患へ浴衣のままの聴診器

大和高田市　岩垣日本村
母だけはキッチリ浴衣着て坐り

大阪市　塩浜　一路
口だけが達者のばかり浴衣がけ

堺　市　八木摩天郎
浴衣着て会社の前は気が咎め

奈良県　増谷　仙居
新柄の浴衣へスター名を借られ

徳島市　福井　花生
朝の海浴衣からげて浸つて見

愛知県　柴田　無方
浴衣着て行く掛合はたかが知れ

大和高田市　戸田　悦子
貸浴衣あしたの事は思うまい

大阪市　赤穂　凉一
こゝだけの浴衣は冬の楽屋裏

入賞第三席

大阪市　吾郷　元三
行先も云はず笑つて出る浴衣

入賞第二席

大阪市　塙　つる子
酒のみの憎い浴衣も縫ふてやる

入賞第一席

相生市　貝原　一句
幹事まだ宿の浴衣を着て居らず

六月八日放送

柳界展望

▲本社七月句会（大阪市）は四日午後六時から下寺町二丁目光明寺に於て開催される来会歓迎▲大阪逓信病院川柳会は六月二十日午後二時から三階図書室で開催▲南区医師会文化部杏林川柳会（大阪市）は六月十六日午後七時半から一哲居で開催▲大阪市警視庁警察部警察学校文化講座（川柳講師・麻生路郎）は六月十二日午後一時—二時四十五分まで開講▲世界長ゴム株式会社文化部の「川柳の話」は六月十二日午後五時から同社会議室で開く▲川雑青葉吟行は六月十四日午前九時近鉄上六駅へ集合、枚岡—観音寺—暗峠—生駒山上で句会を開催した▲南海電鉄川柳会は六月廿二日午後六時から粉浜の親和寮で開催▲川雑アベノ支部句会（大西野介氏の退院祝賀）は六月廿七日午後六時からアベノ区松崎町二丁目西光寺で開催以上何れも路郎主幹出席▲川雑玉造支部句会（大阪市）は六月十三日に岡山町の徳永雅美居で開催▲川雑岡山支部六月例会は十四日山陽会館で開催▲川雑下関支部句会は六月十四日に下関駅会議室で開催された▲川雑備前支部（岡山県）五月例会は十六日に久米雄居で開催された▲青蛙川柳会（伊丹市）は六月八日午後五時から三菱電機正門前の健保会館で開催▲川雑備前支部句会（岡山県）は六月六日娯句楽居で開催▲川雑淀川支部句会（大阪市）は七月二日午後六時から東淀川区三津屋北通四丁目二九武部香林居で開催、兼題「女王」「宝石」「煙火」▲水島公民館川柳の会（岡山県）は五月例会を十九日同館で開催▲広島川柳会第二例会が五月廿五日広島貿易会館で開催された▲故穎原退蔵博士の遺稿「川柳雑俳用語考」が五月上旬、東京都岩波書店から出版された▲「国文学解釈と鑑賞」七月特輯号「庶民文芸としての川柳の智識」には路郎主幹を始め三太郎、水府、雀郎、鞍馬、蓑雄、開古、民郎等の諸氏が執筆された▲徳山川柳会（山口県）から県下川柳大会誌が五月十日に発行された（非売品）▲篠原春雨集が故人の愛婿篠原松雨氏や二代目中村春雨氏等の手によつて五月二十日に刊行された、定価三〇〇円、発行所は甲府市東一条通十五番地篠原春雨刊行会▲川柳読本（水府著）が五月廿五日に創元社（大阪市北区樋上町・東京都中央区日本橋小舟町）から刊行。川柳を極く平易に説いたもの、定価二六〇円地方価二六五円▲榎田竹林氏（静岡市）は従来の家をとりこわし、四月に二階建の手広い家を新築をされたおよろこび申上げる▲津田麦太楼氏（岡山市）は日赤岡山支部の機関誌「黄鳥」に川柳欄を新設され岡山県内の著名川柳人に選を依嘱されることになり、最初に服部十九平氏を選者に推された▲川上三太郎、長崎抜天両氏（東京都）が五月十四日NHKテレビから「世相漫画と川柳」と題しデビューされた。

正誤

▲前号廿八頁上段九行目「カンバス」はの作者大介を方大と訂正▲前号廿三頁上段十九行目波天荒は破天荒と訂正する

本社七月句会

日時
七月四日（土）
午後六時半

場所
天王寺区下寺町二丁目バス停留所前
於　光明寺

兼題
「夫婦」「三角」「庭」
—参会歓迎—

麻生路郎著　水武書房版

川柳を研究したい人々に好適の書

本書は著者が多年ウンチクを傾けて執筆しただけに川柳の新指導書として唯一無二のものである。「川柳とはどんなものか」から説き起して取むるところ三十七講、平明で、親切で初心者は本書を繙くことによつて直ちに川柳作句のコツを会得することが出来る。多年川柳している人たちにとつても又好参考書である。敢えて一読を薦む。

B六版　（二一二頁）改正定價一三〇円　送費　十六円

取次御注文は　大阪市住吉区浜内芳代四五丁目二五　振替口座大阪七五〇五〇　川柳雑誌社

編輯局にて

★毎号好評なので、編輯部の熱の上昇は正に一〇〇パーセントである。一層の御支援御愛読を乞う。★本号の座談会は不朽洞会員で学校関係の人たちに、川柳を通して学校の裏表を語つてもらつた。★不朽洞会員の一部の人たちへのアンケート「若し百万円当つたら」は愚問の割に、それ〴〵の個性が出ていて大変面白かつた。☆戸田古方氏の「川柳と俳句の区別に対する私見」は本号で終つた。完結を待たずに、栗林農夫氏の「俳句と生活」を読んだものには退屈だと云う冷評を「しなの一詰」でしていた人があつたが、おそらく古方氏は「俳句と生活」を読んだ人に、読んでもらうために筆を執つたのではあるまい。お終いまで読めば古方氏は自分の勉強のために筆を執つたことが判る。批評も結構だが、批評は完結を待つてするだけの親切さがなければならない。☆東野大八氏の「人間横丁」は氏の独壇上のものだけになかなかの好評である。☆雑筆春秋欄には安川久留美氏が執筆、会員では中島生々庵、木村水堂の両氏が筆を執つた。母を喪つて久しく筆を絶つていた生々庵氏の「母いまさず」は氏の心境を切実に語つたものである。☆私は本号へは何も書かなかつた。別になまける訳ではないが、なるべく多くの人達に執筆してもらいたいので、スペースがない時には休ませてもらうことにしている。

★柳人交歓の暑中広告まだの方は大急ぎで申込まれたい。（路）

不朽洞会から

▲田中鳥耕博士（大阪市）は五月廿六日に精養軒で営まれた故古嶋一雄翁一周忌法要に参列のため東上された。古嶋翁は鳥耕医博の叔父さんであるが剣花坊に川柳をやらせた意味で川柳界の恩人でもある。吉田首相をはじめ政界のお偉方が多数参列されたと▲藤本満年氏（東京都）は六月末か七月早々に岡山へ出張されるので、その際大阪へも立寄られるとのこと▲戸倉晋天氏（兵庫県）は教育委員長、文化会長等々で多忙の由。氏は還暦記念に句碑を建てられたと、これはもう数年前になるが誰も知らなかつた。迂かつな話である▲弘津柳麿氏（下関市）は五月廿四日に山口市で開催された県下春季川柳大会に出席された由、下関からは十二名程出席▲山本葉光氏（大阪市）は五月一日に同業と共に観光バスで淡輪に遊ばれた単独行動の出来ぬ氏のこと故感激も一人だつたことと思われる▲蛭子省二氏（愛媛県）は梅雨気象のため日夜宿痾になやまされていられるとの由、奥様の代筆で「喘息苦隠さめ年を怖がられ」の句を寄せられた▲田垣方大氏（岡山県）は社用で五月六日来阪、九日十三時三十分大阪発で帰岡された▲日置文笑氏は文郷（ぶんきよう）と改号▲延永忠美氏（岡山市）は五月二十三日から新聞労組中国地協の会議で山陰の玉造温泉へ▲野本呑水氏（吹田市）は永らく闘病生活をされていたが快癒されたので五月八日から出勤されている▲日置文郷氏（鳥取県）は五月廿五日に倉吉の厚生病院内の新築病舎静風荘の三号室に移られた▲川村好郎氏（堺市）六月三日から社用で、仙台、盛岡、青森、函館、札幌へ出張され十三日頃帰堺されると▲大西迷窓氏（香川県）は詫間町の永康病院から郷里高知の入交試験所へ転任される筈であつたが、病院の都合で転任を中止されることになつた▲中谷仙坊氏の住所が岡山県英田郡美作町北山と改称になつた▲徳永雅美氏（大阪市）は事業が著々発展されてるらしいが久々に不朽洞を訪ね帰つてから「何日見ても恩師白若と坐し給ひ」の句を寄せられた▲椙原一善氏の住所が、福田町の合併によつて福田町の名を廃し倉敷市水島と改称された以下の処番地は従来通り鶴生町四ノ三一▲福島鉄児氏（岡山県）は六月七日夜洋服生地並に製品の盗難にかかられたとのこと、お気の毒でお見舞の言葉もありません▲家沢青花氏（兵庫県）は相変らず熱心に作句されているが、娯句楽氏の「寒空へ堆肥醗酵して御座り」にはしてやられたと云つた感じでした。みんなどなたも、うまいとつく〴〵感心します。腹の立つ程です云々と云つて来られた。氏の熱意思うべしである▲尼縁之助氏（出雲市）は支部便りを寄せられ、多忙な仕事の中にあつて、川柳熱を燃やしていられる▲冨士野鞍馬氏（東京都）は相変らずユビガ痛むとのこと、ところへ奥さんが肝臓閉塞黄疸でお困りの御様子、同情に堪えない▲福田山雨楼氏（横浜市）はS博士にかゝりストマイとパスの併用療法で微熱も次第に下り、セキやタンも少なくなり大分しのぎよくなつた由▲延永忠美氏（岡山市）は五月卅一日の日曜に風来子、五風四楽の三氏と共に長島愛生園に川柳慰問された▲飛云春風氏は一身上の都合で五月限退会された▲黒田久米女さんは家庭の都合上六月限で退会▲杉山一貫氏は病後の静養が永びくらしいので六月限退会

川柳雑誌社特製

投句用 柳箋

一冊（五〇枚綴）三〇円

送料 八円

募集

課題吟募集

弁当（十句）中島生々庵選
手紙（十句）大鶴 喜由選（七月廿日締切）
親類（十句）水谷 鮎美選
失敗（十句）菊沢小松園選（八月廿日締切）

毎號募集

近作柳樽（雑詠廿句）麻生路郎選
川柳塔（雑詠）麻生路郎選
文章（評論・研究・感想其他）（毎月廿日締切）

投稿規定

▼投句は各種必ず別紙に認め、住所氏名雅号を明記する事。
▼『近作柳樽』は一般作家の雑吟を募る。
▼『課題吟』は何人でも投句が出来る。
▼『川柳塔』への投句は不朽洞会員に限る。

Printed in Japan

B列5号 毎月一回一日発行

川柳雑誌 第八卷 第七号

（載轉禁）

定価 四〇円

昭和廿八年 半ヶ年 送料（四円） 二六四円
昭和廿八年 一ヶ年 五二八円
昭和廿八年七月一日発行
昭和廿八年六月廿五日印刷

印刷兼発行人 麻生幸一郎
大阪市住吉区瓜内町五代四五丁目二五番地

発行所 川柳雑誌社
大阪市住吉区瓜内町五代西五丁目二五番地
振替口座 大阪 七五〇五〇

行発日一月七年八廿昭　一本納郵税五廿月六年八廿昭　（行発日一月一月毎）可認特便郵雑三第日一月七年二廿昭

THE SENRYU ZASSHI

NO・314

Published monthly by Senryu Zasshisha, Osaka, Japan.

新日本放送毎週金曜日　ヨル 8時30分

落語あり、漫才あり、浪曲・講談・地唄・歌謡曲・春曲・コントはてはミュージカルショウやバラエティショウに至るまでありとあらゆる演芸を五目飯にして皆様の食前に供しています。
さて、いかがでございましょう五目めしの味は？

南海電車

避妊には・・
ゼリー剤を！

★溶ける時間がいらず速効且つ確実で運用しても無害
★注入器で膣部へ送るか、タンポンに塗り御使用を！

サンシーゼリー

山之内　1姫2太郎3サンシー

御婦人には・・・
大丸の商品券
大阪・京都・神戸・名古屋・広島・福岡・別府の七都の大丸に共通です・・・・
50円―1万円の九種類

1階新品売場

大丸
大阪心斎橋

円四料送　圓拾四價定　誌雑柳川　號四一三第